

工事記録写真等撮影要領

平成28年7月

東日本高速道路株式会社
中日本高速道路株式会社
西日本高速道路株式会社

目 次

1 適用範囲……………	1
2.目的……………	1
3 工事写真の分類……………	1
3.1 着手前写真	
3.2 施工状況写真	
3.3 検査写真	
3.4 安全管理写真	
3.5 完成写真	
3.6 災害写真	
3.7 その他写真(公害、環境、補償等)	
4 撮影基準……………	2
4.1 撮影機材	
4.2 デジタルカメラの画素数	
4.3 撮影内容の表示	
4.4 撮影位置および角度	
4.5 連続写真	
4.6 拡大写真	
4.7 写真の色彩	
5 提出時期・提出方法……………	3
5.1 着手前、施工状況、安全管理、完成、災害、その他写真	
5.1.1 提出時期	
5.1.2 整理方法	
5.1.3 提出方法	
5.2 検査写真	
5.2.1 提出時期	
5.2.2 提出方法	
5.2.3 デジタル写真の印刷	
6 デジタル写真に関する仕様……………	4
6.1 電子媒体	
6.1.1 電子媒体	
6.1.2 電子媒体に貼るラベルについて	
6.1.3 複数枚に亘る場合の処置	
6.2 フォルダ構成とファイルの格納	
6.3 情報ファイルの構造と格納	
6.3.1 工事管理ファイル	
6.3.2 写真属性情報ファイル	
6.4 ファイル仕様	
6.4.1 ファイル形式	
6.4.2 ファイル名	
7 その他留意事項……………	13
7.1 コンピュータウイルス対策	
7.2 使用文字	
8 用語の定義……………	14
表-1 施工状況写真撮影箇所一覧表……………	16

付属資料1
工事管理項目の記入方法
付属資料2
工事管理ファイルDTD
付属資料3
工事管理ファイルXML 記入例
付属資料4
写真管理項目の記入方法
付属資料5
写真属性ファイルDTD
付属資料6
写真属性情報ファイルXML 記入例
付属資料7
使用可能文字一覧

1 適用範囲

本要領は、以下の仕様書に規定する写真の撮影、整理に適用する。

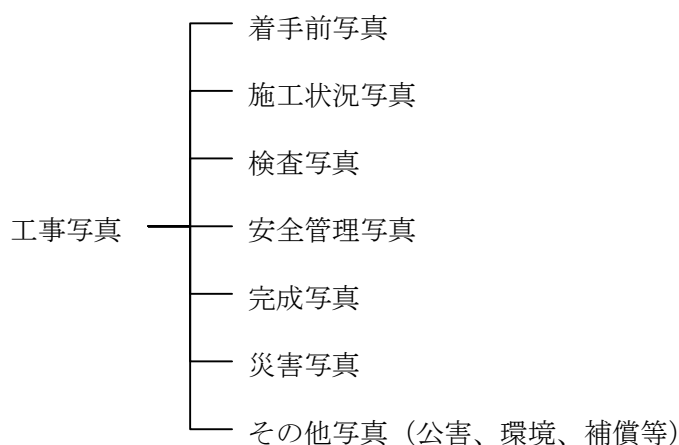
- ・土木工事共通仕様書

2 目的

本基準は、工事記録写真の撮影基準及び提出時期等について、必要事項を定め、工事の一連の経過を記録することを目的とする。

3 工事写真の分類

工事写真は次のように分類する。



監督員の指示により、税務上の資料として損建判断用の写真を撮影した場合は、工事写真とは別に整理し、提出するものとする。

3.1 着手前写真

現地着手前の状況を撮影する。全体的な状況を把握するために必要な場合は、パノラマ写真とすることができる。ただし、パノラマ写真は撮影機材の機能を利用して撮影したもののみとし、PCで編集・加工して作成した画像(つなぎ写真など)は不可。

3.2 施工状況写真

工事(作業)の段階ごとに、着手から完成までの施工状況が把握可能なように撮影する。

施工状況写真の撮影項目及び頻度等は、「表-1 施工状況写真撮影箇所一覧表」によるものとする。ただし、この一覧表は、撮影に当たっての標準的なものを示したものであり、監督員等の指示により撮影項目及び頻度等を増減して撮影することができる。

また、工事目的物とならない割掛項目のうち、監督員が必要と認めた場合は、その工事材料、建設機械器具、施工状況等が把握可能な写真を撮影するものとする。

3.3 検査写真

工事目的物に使用する材料の形状寸法及び工事完成後に外面から明視できない出来形の測定状況等について、設計図書で規定された検査及び立会を省略した場合に撮影する。

監督員が現地において検査及び立会を行った場合、撮影は不要とする。

不可視となる出来形部分については、出来形寸法(上墨寸法含む)が確認できるよう、特に注意して撮影しなければならない。

3.4 安全管理写真

工事(作業)における保安施設等の配置状況や安全確保のための対策・訓練等の状況を把握するために撮影するものである。

3.5 完成写真

完成写真は、工事終了時に、土工、構造物工、トンネル工等、工種毎に分類し、測点順に撮影するものとする。全体的な状況を把握するために必要な場合は、パノラマ写真とすることができる。ただし、パノラマ写真は撮影機材の機能を利用して撮影したもののみとし、PCで編集・加工して作成した画像(つなぎ写真など)は不可。

3.6 災害写真

契約図書に定める天災等により、工事目的物、仮設物または工事材料もしくは建設機械器具に発生した損害を明確にするために撮影する。

3.7 その他写真(公害、環境、補償等)

工事の施工に起因する第三者への損害に対応するため、問題発生箇所の状況把握を目的として撮影するものである。

なお、事前に問題発生が懸念される場合は、発生前の状況を撮影しておくものとする。

4 撮影基準

4.1 撮影機材

写真の撮影はデジタルカメラで行い、「6. デジタル写真に関する仕様」に規定する電子媒体及び写真ファイルを提出することを基本とする。特に、完成写真と災害写真については、GNSS機能付きの撮影機材を使用し、位置情報を確認できる写真を提出すること。

また、「6. デジタル写真に関する仕様」の規定に準拠するものであれば、携帯電話・スマートフォンなどを用いて撮影した写真ファイルを提出することもできる。

4.2 デジタルカメラの画素数

有効画素数120万画素以上のデジタルカメラを用い撮影するものとする。また、画像の出力画素数などについては、「6. デジタル写真に関する仕様」を参照。

なお、デジタル写真の画像編集・加工は一切認められないので、撮影開始前に規定の画素数となるよう、十分な確認を行なわなければならない。

4.3 撮影内容の表示

撮影にあたっては、撮影目的物付近を整理整頓して、形状、寸法及び位置が判明できるよう黒板と箱尺、リボンロッド又はポール等を目的物に添えるものとする。

この場合、形状、寸法及び位置の確認を容易にするため、丁張、ヤリ形等の背景を入れ、黒板

には、工事等名、工種、測点(位置)、日付、受注者名、設計寸法、実測寸法及び略図等を記入するものとする。黒板の代わりに、電子黒板を使用した写真も可とするが、その場合は撮影目的物の撮影と同時に記録されるものでなければならない。

工事完成写真においては、黒板や電子黒板を省略することができるが、省略した場合はデジタルカメラの日付写し込み機能により撮影日を明示するものとする。

4.4 撮影位置および角度

工事中、同一箇所を施工の各段階で撮影する場合は、位置の確認を容易にするために、撮影地点、撮影角度等を常に一定とし、同一の背景を入れて撮影するものとする。

4.5 連続写真

撮影区間の長いものについては、パノラマ写真とするが、ポール等の標識で測定等位置の表示を明確にするものとする。ただし、パノラマ写真は撮影機材の機能を利用して撮影したもののみとし、PCで編集・加工して作成した画像(つなぎ写真など)は不可。

4.6 拡大写真

ある箇所の一部分を拡大して撮影する必要がある場合は、その箇所の全景を撮影した後、拡大撮影する部分の位置が確認できるように撮影するものとする。なお、拡大写真撮影時に黒板が入らない場合は、デジタルカメラの日付写し込み機能により撮影日を明示するものとする。

4.7 写真の色彩

写真は原則としてカラーとする。

5 提出時期・提出方法

5.1 着手前、施工状況、安全管理、完成、災害、その他写真

5.1.1 提出時期

工事完了後、しゅん功届提出前に提出するものとする。

5.1.2 提出方法

写真は「6. デジタル写真に関する仕様」により整理した後、「工事記録写真チェックシステム」によりチェックを実施し、エラーがないことを確認したうえで、チェック結果を印刷し、電子媒体と併せて監督員に提出するものとする。

なお、工事記録写真チェックシステムは、株式会社高速道路総合技術研究所のホームページ(www.ri-nexco.co.jp)よりダウンロードした最新のものをを用いること。

5.2 検査写真

検査写真は、「5.1.1」、「5.1.2」に加えて以下についても提出するものとする。

5.2.1 提出時期

撮影後、速やかに監督員に提出し、確認を受けるものとする。

なお、監督員が現地において検査及び立会を行った場合、写真の提出は不要とする。

5.2.2 提出方法

写真ファイルを工事管理支援システムまたは工事情報共有・保存システムを用いて監督員に提出するものとする。

6 デジタル写真に関する仕様

6.1 電子媒体

6.1.1 電子媒体

デジタルカメラにより撮影した写真を提出する場合、記録媒体には CD-R または DVD-R を用いるものとする。CD-R のフォーマットはISO9660(レベル1)を標準とし、DVD-R のフォーマットはUDF(UDF Bridge)とする。写真枚数が多く、容量上の問題から複数枚とならざるをえない場合には、6.1.3 の規定に従うものとする。

電子媒体は正副2組を作成し、6.1.2 に示す表記項目を表面に直接印刷、または油性フェルトペンで表記するものとする。

6.1.2 電子媒体の表記項目

CD-R(DVD-R) には以下の項目を明記するものとする。

- ・ コリンズ 登録番号
- ・ 契約番号
- ・ 工事等名称
- ・ 作成年月
- ・ 発注者名
- ・ 受注者名
- ・ 何枚目／総枚数
- ・ ウィルスチェック情報(ソフト名、ウィルス定義年月日またはパターンファイル名)
- ・ フォーマット形式

また、媒体を入れるプラスチックケースのラベルの背表紙には、以下のような情報を横書きで明記する。

- ・ 工事等名称
- ・ 作成年月

6.1.3 複数枚に亘る場合の処置

各媒体に貼るラベルに「何枚目／総枚数」を明記する。

何枚目の媒体であっても媒体内のルートからのフォルダ構成は変更しない。

また、何枚目の媒体であっても、工事管理項目を記述した工事管理ファイルを各媒体のルート直下に同じものを格納する。ただし、工事管理項目中のメディア番号については、ラベルに明記してある「何枚目／総枚数」の何枚目と整合を取る。

6.2 フォルダ構成とファイルの格納

フォルダ構成は、図1に示すとおりとする。

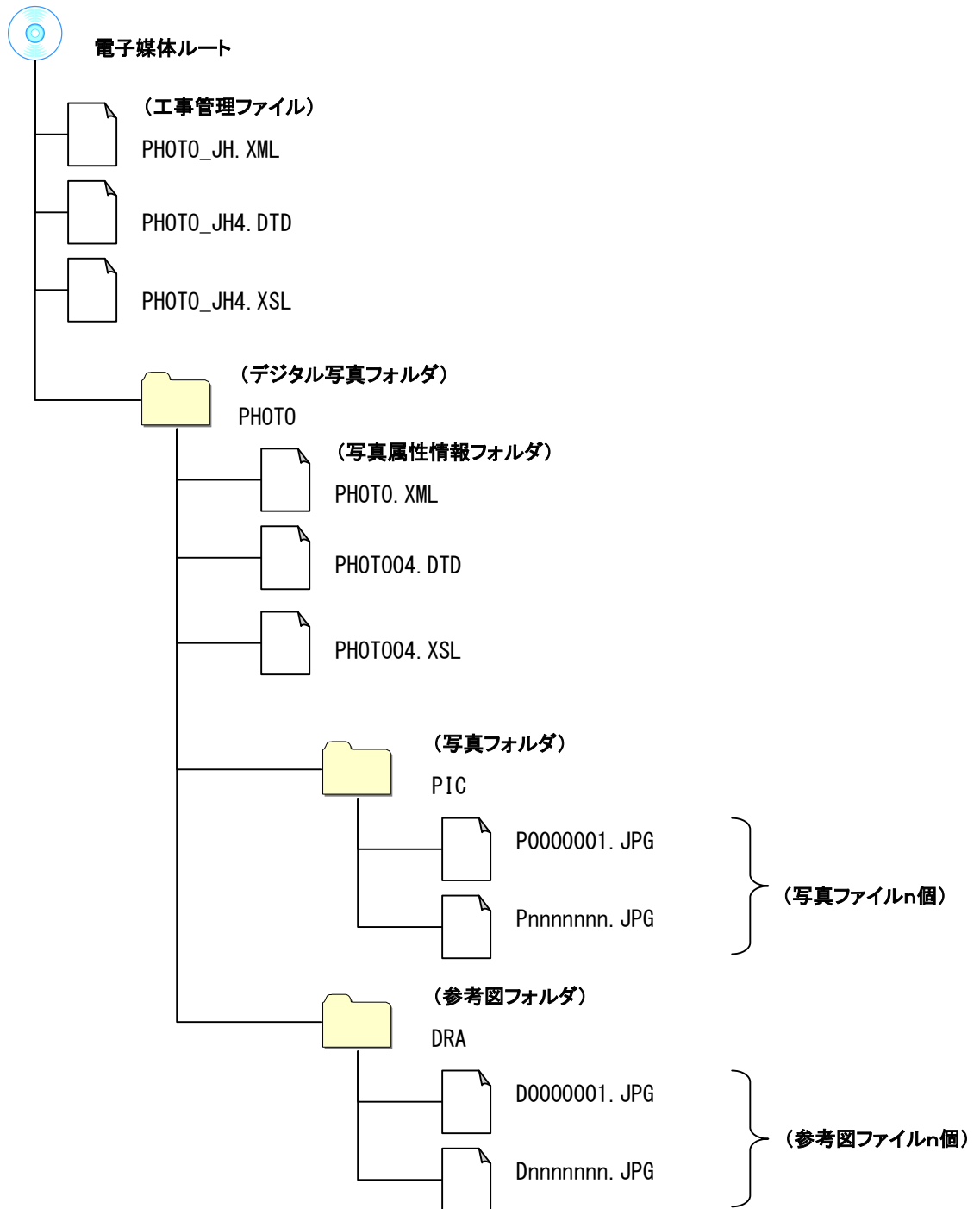


図1 フォルダ構成図

電子媒体のルートに、電子媒体および工事等の属性情報を記述した工事管理ファイル (PHOTO_JH.XML)とそのXML 構造を定義したDTD ファイル (PHOTO_JH4.DTD)を格納し、写真関係のファイル等を格納する「PHOTO」フォルダを作成する。

「PHOTO」フォルダの下に「PIC」と「DRA」のフォルダを置くものとする。また、「PHOTO」フォルダの下に写真属性情報ファイル (PHOTO.XML)とそのXML 構造を定義したDTD ファイル (PHOTO04.DTD)を格納する。

「PIC」フォルダとは、撮影した写真ファイルを保管するフォルダであり、「DRA」フォルダとは、

参考図ファイルを保管するフォルダである。なお、参考図ファイルとは、撮影位置、撮影状況等の説明に必要な撮影位置図、平面図、凡例図、構造図等を電子化したものをいう。

DTDファイルは、株式会社高速道路総合技術研究所のホームページ(www.ri-nexco.co.jp)よりダウンロードした最新のものをを用いること。

6.3 情報ファイルの構造と格納

6.3.1 工事管理ファイル

電子媒体および工事等の属性をあらわす各種データについて、表-2 に示す工事管理項目に規定されている各項目をXML で記述したものである。

ファイル名は「PHOTO_JH.XML」とし、変更してはならない。

付属資料1 に工事管理項目の記入方法、付属資料2 に工事管理ファイルのDTD、付属資料3 に工事管理ファイルのXML 記入例を示す。

なお、表-2 中の「データ表現」の定義は「7.2 使用文字」に従うものとする。

表-2 工事管理項目

カテゴリー	項目名	記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
基礎情報	メディア番号	提出した媒体の通し番号を記入する	半角数字	8	<input type="checkbox"/>	◎
	メディア総枚数	提出した媒体の総枚数を記入する	同上	8	<input type="checkbox"/>	◎
	適用要領	適用した要領の名称(「工事記録写真等撮影要領平成28年7月」で固定)を記入する。	全角文字 半角英数字	30	▲	◎
	写真フォルダ名	写真を格納するフォルダ名称(「PHOTO」で固定)を記入する	半角英数大文字	5 固定	▲	◎
ソフトウェア情報	ソフトウェア名	工事管理ファイルを作成したソフトウェア名を記入する	全角文字 半角英数字	64	▲	○
	バージョン情報	工事管理ファイルを作成したソフトウェアのバージョンを記入する	半角英数字	127	▲	○
	メーカー名	ソフトウェアメーカー名を記入する	全角文字 半角英数字	64	▲	○
	メーカー連絡先	メーカー連絡先(住所、電話番号等)を記入する	同上	127	▲	○
	ソフトメーカー用TAG	ソフトウェア情報予備項目を記入する	同上	127	▲	△
工事件名等	発注年度	工事の発注年度を西暦4桁で記入する	半角数字	4 固定	<input type="checkbox"/>	◎
	工事番号	発注者が定める契約番号を記入する	同上	127	<input type="checkbox"/>	◎
	路線水系名等	コリンズの「対象水系_路線名称」に従って記入する	全角文字 半角英数字	127	■	○
	工事名称	コリンズの「件名」に従って記入する	同上	127	■	◎
	工事分野	コリンズの「公共事業の分野」に従って記入する	同上	16	■	◎
	工事業種	コリンズの「本件登録工事の受注に対応した建設業許可業種」に従って記入する	同上	16	■	◎
	工種	コリンズの「工種_工法_形式」の工種を記入する(複数記入可)	同上	127	■	◎
	工法形式	コリンズの「工種_工法_形式」の工法_形式を記入する(複数記入可)	同上	127	■	◎
	住所コード	代表地点又は、施工場所の開始場所および終了場所のコードをコリンズコード表より選択し、記入する(コリンズの「施工場所コード」に対応、複数記入可)	半角数字	5 固定	■	◎

	住所	代表地点又は、施工場所の開始場所および終了場所(県名以下の住所)を出来る限り詳細に記入する(コリンズ の「住所」に対応、複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	■	◎
	工期開始日	工期の開始年月日を記入する	半角数字 - (HYPHEN -MINUS)	10 固定	■	◎
	工期終了日	工期の終了年月日を記入する	同上	10 固定	■	◎
	工事内容	工事概要および主工種とその数量を記入する	全角文字 半角英数字	127	□	◎
場所情報	起点側測点-n	(自)n+m のn を4 桁で記入する	半角英数字	4 固定	□	○
	起点側測点-m	(自)n+m のm を3 桁で記入する	同上	3 固定	□	○
	終点側測点-n	(至)n+m のn を4 桁で記入する	同上	4 固定	□	○
	終点側測点-m	(至)n+m のm を3 桁で記入する	同上	3 固定	□	○
	起点側距離標-n	(自)n+m のn を4 桁で記入する	同上	4 固定	□	○
	起点側距離標-m	(自)n+m のm を3 桁で記入する	同上	3 固定	□	○
	終点側距離標-n	(至)n+m のn を4 桁で記入する	同上	4 固定	□	○
	終点側距離標-m	(至)n+m のm を3 桁で記入する	同上	3 固定	□	○
	西側境界座標経度	対象領域の最西端の座標を経度で表す度(3桁)分(2桁)秒(2桁)	同上	7 固定	□	○
	東側境界座標経度	対象領域の最東端の座標を経度で表す度(3桁)分(2桁)秒(2桁)	同上	7 固定	□	○
	北側境界座標緯度	対象領域の最北端の座標を緯度で表す度(3桁)分(2桁)秒(2桁)	同上	7 固定	□	○
	南側境界座標緯度	対象領域の最南端の座標を緯度で表す度(3桁)分(2桁)秒(2桁)	同上	7 固定	□	○
施設情報	施設名称	施設名称を記入する	全角文字 半角英数字	127	□	○
発注者情報	発注者-大分類	発注者の社名を記入する(コリンズ の「発注機関名」に対応)	同上	16	□	◎
	発注者-中分類	発注者の局名、支社名などを記入する(コリンズ の「発注機関名」に対応)	同上	32	□	◎
	発注者-小分類	事務所名などを記入する(コリンズ の「発注機関名」に対応)	同上	30	□	◎
	発注者コード	コリンズ の「発注機関コード」に従って記入する	半角数字	8 固定	■	◎
受注者情報	受注者名	受注者の正式名称を記入する(コリンズ の「請負者名称」に対応)	全角文字 半角英数字	127	■	◎
	受注者コード	発注者が定める受注者コードを記入する	半角数字	127	□	◎
予備		予備項目があれば記入する(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△

凡例1【記入者】

■:コリンズ から取得した実績データ(XMLファイル)から取り込むことが可能な項目。

□:電子媒体作成者が記入する項目。

▲:電子媒体作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

凡例2【必要度】

- ◎: 必須記入。
- : 条件付き必須記入(データが分かる場合は必ず記入する)
- △: 任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

6.3.2 写真属性情報ファイル

写真に関する属性をあらわす各種データについて、表-3 に示す写真管理項目に規定されている各項目をXML で記述したものである。

付属資料4 に写真管理項目の記入方法、付属資料5 に写真属性情報ファイルのDTD、付属資料6 に写真属性情報ファイルのXML 記入例を示す。

ファイル名は「PHOTO.XML」とし、変更してはならない。

なお、表-3 中の「データ表現」の定義は「7.2 使用文字」に従うものとする。

表-3 写真管理項目

カテゴリー	項目名	記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
基礎情報	写真フォルダ名	写真を格納するフォルダ名(「./PIC」で固定)を記入する。	半角英数大文字	5 固定	▲	◎
	参考図フォルダ名	参考図を格納するフォルダ名(「./DRA」で固定)を記入する。	同上	5 固定	▲	○
	適用要領	適用した要領の名称(「工事記録写真等撮影要領平成28年7月」で固定)を記入する。	全角文字 半角英数字	30	▲	◎
ソフトウェア情報	ソフトウェア名	写真管理ソフトウェア名	同上	64	▲	○
	バージョン情報	写真管理ソフトウェアバージョン情報	半角英数字	127	▲	○
	メーカー名	ソフトウェアメーカー名	全角文字 半角英数字	64	▲	○
	メーカー連絡先	メーカー連絡先(住所、電話番号等)	同上	127	▲	○
	ソフトメーカー用TAG	ソフトウェア情報予備項目	同上	127	▲	△
写真ファイル情報	シリアル番号	写真通し番号	半角数字	7	□	◎
	写真ファイル名	写真ファイル名称を拡張子も含めて記入する	半角英数大文字	12 固定	□	◎
	メディア番号	写真の含まれる電子媒体のメディア番号	半角数字	8	□	◎
撮影工種区分	写真-大分類	写真を撮影した業務の種別 工事写真の場合、「工事」を記入する	全角文字	8	□	◎
	写真区分	「着手前写真」「施工状況写真」「検査写真」「安全管理写真」「完成写真」「災害写真」「その他写真」のいずれかを記入する	同上	127	□	◎
	工種	「表-1 施工状況写真撮影箇所一覧表」の工種	全角文字 半角英数字	127	□	○
	種別	「表-1 施工状況写真撮影箇所一覧表」の種別	同上	127	□	○
	細別	「表-1 施工状況写真撮影箇所一覧表」の項目	同上	127	□	○
	写真タイトル	写真の撮影内容、撮影項目	同上	127	□	◎
	工種区分予備	工種区分に関する予備項目(複数記入可)	同上	127	□	△

付加 情報	参考図ファイル名	撮影位置図、凡例図等の参考図面のファイル名	半角英数大文字	12 固定	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
	参考図タイトル	参考図の内容がわかるようなタイトル	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
	付加情報予備	参考図等付加情報に関する予備項目	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	<input type="triangle"/>
撮影 情報	撮影箇所	測点位置、撮影内容、位置図面上の記号等	同上	127	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
	撮影年月日	写真を撮影した日付 CCYY・MM・DD(西暦年月日)で記入する	半角数字 ・(HYPHEN -MINUS)	10 固定	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
施工 管理 値	施工管理値	設計寸法及び実測寸法等	全角文字 半角英数字	127	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
その 他	受注者説明文	受注者側で写真につけるコメント	同上	127	<input type="checkbox"/>	<input type="triangle"/>

注1:写真情報は、写真の枚数分を繰り返し登録する。

注2:工種・種別・細別について、「表-1 施工状況写真撮影箇所一覧表」にない場合は、類似のものを表内から必ず
選択する。

注3:付加情報は、一枚の写真に対して関連する参考図の枚数分を繰り返し登録する。

凡例1【記入者】

:電子媒体作成者が記入する項目。

:電子媒体作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

凡例2【必要度】

:必須記入。

:条件付き必須記入(データが分かる場合は必ず記入する)

:任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

6.4 ファイル仕様

6.4.1 ファイル形式

写真ファイル、参考図ファイルのファイル形式は、写真の種類などにより、以下のとおりとする。

表-4 ファイル形式

分類	写真区分	フォーマット	Exif	画像ファイル 諸元等	GNSS 位置情報
写 真	着手前写真	JPEG	Ver2.1 以上	1,280 × 960Pixel 以下	-
	施工状況写真 検査写真 安全管理写真 その他写真	JPEG	Ver2.1 以上	1,280 × 960Pixel 以下	-
	完成写真	JPEG	Ver2.1 以上	制限なし	必須
	災害写真	JPEG	Ver2.1 以上	制限なし	必須
参 考 図		JPEG	-	500KB以下	-
		TIFF(G4)	-	150~200dpi程度	-

着手前写真、完成写真は、撮影機材の機能を利用したパノラマ写真とすることができる。

完成写真、災害写真は、GNSSによる位置情報が取得可能な撮影機材を用いて撮影し、撮影位置を確認できる写真ファイルとすること。ただし、測位衛星からの電波の受信状況が悪い場所で撮影した場合は、監督員に位置情報なしの写真ファイルである旨を連絡するとともに、撮影箇所情報を写真属性情報ファイルのカテゴリ「撮影箇所」に詳細に入力するものとする。

なお、写真は、信憑性を考慮し、一切の画像編集を認めない。

注) GNSS: 汎地球測位航法衛星システム (Global Navigation Satellite System)、衛星を用いた測位システムの総称

6.4.2 ファイル名

写真ファイルのファイル名は英数文字で記述することを原則とし、ファイル名に使用する文字は半角(JISX 0201 に規定されている文字)で、大文字のアルファベット「P」、数字「0～9」のみとする。

写真ファイルの命名規則を図2 に示す。



図2 写真ファイルの命名規則

参考図ファイルのファイル名は英数文字で記述することを原則とし、ファイル名に使用する文字は半角(JISX 0201 に規定されている文字)で、大文字のアルファベット「D」、数字「0～9」のみとすることを基本とする。

参考図ファイルの命名規則を図3 に示す。

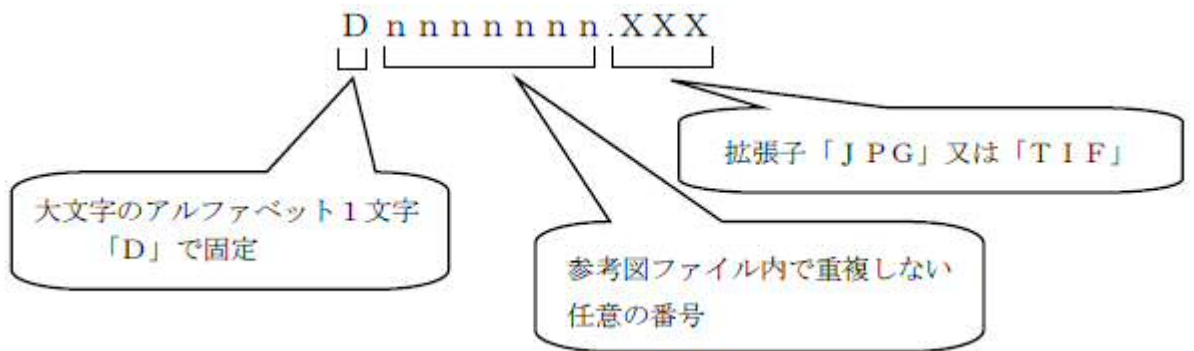


図3 参考図ファイルの命名規則

7 その他留意事項

7.1 コンピュータウイルス対策

電子媒体を提出する前には、必ず以下の項目にしたがってコンピュータウイルスの対策を行わなければならない。

ウイルス対策ソフトは特に指定はしないが、シェアの高いものを利用する。最新のウイルスも検出できるように、ウイルス対策ソフトは常に最新のデータに更新(アップデート)したものを利用する。

納品する電子媒体のラベルに、ウイルスチェックに関する情報として以下を記載する。

- (a) 使用したウイルス対策ソフト名
- (b) ウィルス(パターンファイル) 定義年月日またはパターンファイル名
- (c) チェック年月日

7.2 使用文字

工事管理ファイル、写真属性情報ファイルの作成において使用する文字については、以下の各項目に従うものとする。

- ・ 表-2、表-3 における各文字の定義は以下のとおりである。使用文字の一覧は付属資料7を参照のこと。
- ・ 文字の符号化方式はUTF-8とする。
- ・ XML の予約文字については、実体参照により表現すること。
- ・ JIS X 0208 に規定されている数字・ラテン文字・特殊文字のうちJIS X 0201 でも規定されているもの、及びJIS X 0201 の片仮名用図形文字は、その使用を禁止する。

表-5 文字定義一覧表

文字種	定義
全角文字	JIS X 0208 で規定されている文字
半角英数字	JIS X 0201 で規定されている文字
半角英数大文字	「半角英数字」からLATIN SMALL LETTER A ~Z “abcdefghijklmnopqrstuvwxyz”を除いた文字
半角数字	JIS X 0201 で規定されている文字のうちDIGIT ZERO～ NINE “0123456789”およびFULL STOP “.”

8 用語の定義

XML: eXtensible Markup Language(拡張可能なマーク付け言語)

W3C により策定されたメタマークアップ言語です。また、日本工業規格 JIS X 4159:2002 拡張可能なマーク付け言語 (XML) 1.0 として規格化された言語である。

DTD: Document Type Definitions (文書型定義)

XML 文書を構成する要素が現れる場所、順序、出現回数などの文書構造を定義する仕組みである。

XSL: eXtensible Style Language(スタイルシート)

XML 文書の書式(体裁)を指定するスタイルシートを提供する仕様であり、「標準仕様書 TSX0088:2006 拡張可能なスタイルシート(XSL) 1.1」、「JIS X 4169:2007 XSL 交換(XSLT) 1.0」の規格がある。

コリンズ: Construction Records Information Service

「工事实績と技術者のデータベース」であり、公共工事の一般競争入札方式等の入札・契約手続きを支援するシステムである。

Pixel: ピクセル(画素)

デジタル画像を構成する単位、デジタル画像(ラスター画像)は四角の色の付いた点(ピクセル)を縦横に規則正しく敷き詰める事により画像を表現している。

JIS X 0201: 日本工業規格

JIS X 0201:1997 7 ビット及び8 ビットの情報交換用符号化文字集合、この規格は、1991年に第3 版として発行されたISO/IEC 646, Information technology-ISO 7-bit coded character set for information interchange を元に作成した日本工業規格である。

JIS X 0208: 日本工業規格

JIS X 0208:1997 7 ビット及び8 ビットの2 バイト情報交換用符号化漢字集合、この規格は、6879 文字の図形文字とそれらのビット組合せとの対応を規定した規格である。

JPEG: Joint Photographic Experts Group

ラスター画像のファイル形式、ISO により設置された専門家組織の名称がそのまま使われている。圧縮の際に、画質劣化(一部のデータを切り捨てる)起こす事で有名、写真などの自然画の圧縮には効果的だが、線画等には向かない。

TIFF(G4): Tagged Image File Format(Group 4)

複数枚の画像データまとめて保存することも出来、解像度や色数、符号化方式等も様々な方式が利用できる。今回は、Comite Consultatif International Telegraphique et Telephonique の定めた FAX 用の国際規格であるG4 圧縮方式を利用する。白黒画像を高い圧縮率で保存することが可能である。

ISO 9660(Level1): Volume and file structure of CD-ROM for Information Interchange

1988年にISOが定めた論理File Format規格。1986年にMicrosoft、Apple、DEC、Phillips、などによって提案されたOS に依存しない共通Format(High Sierra Format)をISOにより、標準化したものである。Level1 では、ディレクトリ名は8 文字、ファイル名は8 文字以下+

拡張子3文字、ディレクトリの階層は8階層まで、使用可能文字は英大文字と数字、「_」(LOWLINE)である。日本でも日本工業規格、JIS X 0606:1998 として標準化されている。

UDF: Universal Disk Format

UDFは、ISO 9660に代わるファイルシステムとして策定された。ISO/IECとEcma Internationalによってそれぞれ ISO/IEC 13346 と ECMA-167 として規格化されている。

UDF Bridge:

UDF Bridge は、UDF + ISO 9660 の 2重構造。UDFに対応していないOSでもISO 9660部分を読み出すことができる。

dpi: Dot Per Inch

解像度の単位。1 インチを何個の点の集まりとして表現するかを表す単位である。この値は大きいほど、綺麗な表現が可能となるが画像数が大きくなるため、ファイルサイズなどが大きくなる。

表-1 施工状況写真撮影箇所一覧表

工種	種別	項目 (PHOTO, XMLにおける「種別」)	撮影項目	撮影時期			撮影頻度	
				施工前 (着手前)	施工中 (状況)	施工後 (完成)		
準備工等	準備工	伐開除根	施工	○	○	○	箇所毎に1回	
土工	掘削工	道路掘削	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
		捨土掘削	使用機械	○			機械毎に1回	
		客土掘削	土取場	○	○	○	箇所毎に1回	
			自工区外盛土場(本線外)	○	○	○		
			表土削り取り		○			
			有用土の仮置き		○			
			発破試験		○		試験毎に1回	
			岩判定試験		○			
			切土路床部置換え		○	○	置換え箇所毎に1回	
			土軟弱の境界線		○	○	1切土箇所毎に1回	
		構造物掘削	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
			床付け面		○	○	箇所毎に1回	
			地盤支持力確認		○	○		
			地下埋設物		○			
		盛土工	盛土工	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回
				使用機械	○			機械毎に1回
				モデル施工		○		モデル施工毎に1回
				ブルーローリング		○		試験毎に1回
				載荷盛土			○	箇所毎に1回
	構造物裏込め工	裏込め	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
			モデル施工		○		モデル施工毎に1回	
	動態観測工	変形観測	計測		○		種別毎に1回	
		水位観測	使用機械	○			機会毎に1回	
	気泡混合軽量盛土工	気泡混合軽量盛土工	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	補強土壁工	補強土壁工	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
		動態観測	使用機械	○			機械毎に1回	
			計測		○		種別毎に1回	
	基礎材	基礎材	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	その他	その他	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
			その他		○	○	適宜	
軟弱地盤処理工	表層排水工	表層排水工	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	コンパクションパイル工	サンドコンパクションパイル 砕石コンパクションパイル 中詰砂、中詰砕石	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
			試験打設		○	○	箇所毎に1回	
	載荷盛土取除き工	載荷盛土取除き工	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
			載荷盛土取除き面			○	箇所毎に1回	
		動態観測工	変形観測	計測		○		種別毎に1回
			水圧観測	使用機械	○			機会毎に1回
	その他	その他	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
			その他		○	○	適宜	
のり面	種生工	張芝工	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
		種散布工	使用機械	○			機械毎に1回	
		種吹付工						
		種生基材吹付工 種生マット工						
	のり面保護工	コンクリート砕工	施工(組立状況含む)	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
		現場打ち砕工	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
		吹付のり砕工	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
		セメントモルタル吹付工	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
		切土補強土工	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
		縦横補強コンクリート吹付工	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
		使用機械	○			機械毎に1回		
	地すべり対策工	グラウンドアンカー工	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
		抑止杭工 水抜ボーリング工 集水井工	使用機械	○	○		機械毎に1回	
	動態観測工	移動観測	計測		○		種別毎に1回	
水文観測 構造観測		使用機械	○			機会毎に1回		

工種	種別	項目 (PHOTO, XMLにおける「細別」)	撮影項目	撮影時期			撮影頻度	
				施工前 (着手前)	施工中 (状況)	施工後 (完成)		
のり面 (続き)	ブロック積(張)工	コンクリートブロック積工 コンクリートブロック張工 大型コンクリートブロック積工 裏込め砕石 基礎工	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	落石防護工	落石防護網工 落石防護欄工	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
かご工	じゃかご工 ふとんかご工	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回		
		使用機械	○			機械毎に1回		
その他	その他	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回		
		使用機械	○			機械毎に1回		
用・排水構造物工	用・排水溝	プレキャスト排水溝 現場打ち用排水溝 小型現場打ち側渠 仮排水溝	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	用・排水管	遠心力鉄筋コンクリート管 地下排水工	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	薬水ます工	薬水ます マンホール	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	のみ口・吐口工	のみ口・吐口工	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	その他	その他	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	カルバート工	コンクリートパイプカルバート	遠心力鉄筋コンクリート管 プレストレスコンクリート管	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回
基礎施工状況					○		施工箇所毎に1回	
使用機械				○			機械毎に1回	
コルゲートパイプカルバート		コルゲートパイプ	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			基礎施工状況		○		施工箇所毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
高耐圧ポリエチレンパイプカルバート		高耐圧ポリエチレンパイプ	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			基礎施工状況		○		施工箇所毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
鉄筋コンクリートカルバート		鉄筋コンクリートカルバート	施工	○	○	○	規格毎に1回	
			コンクリート打継目		○	○	施工箇所毎に1回	
			裏面排水		○	○		
使用機械		使用機械	○			機械毎に1回		
継目工		継目工	施工	○	○	○	規格毎に1回	
	使用機械		○			機械毎に1回		
その他	その他	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回		
		使用機械	○			機械毎に1回		
基礎杭及びケーソン工	基礎杭	既製コンクリートぐい 鋼管ぐい、鋼管矢板、H鋼ぐい	施工状況	○	○	○	杭種別毎に1回	
			主要機械・設備	○			組合せ毎に1回	
			掘削土処理	○			橋台または橋脚毎に1回	
			杭頭処理		○	○		
			掘削状況	○	○	○	杭種別毎に1回	
		場所打ちコンクリート杭(機械掘削)	掘削機械・設備	○			組合せ毎に1回	
			掘削土処理	○			橋台または橋脚毎に1回	
			鉄筋(加工・組立)	○				
			鉄筋(建込み)	○				
			コンクリート打設		○	○		
		場所打ちコンクリート杭(人力掘削)	杭頭処理		○	○		
			掘削状況	○	○	○	橋台または橋脚毎に1回	
			掘削機械・設備	○				
			掘削土処理	○				
			ライナープレート		○	○		
	試験ぐい	既製コンクリートぐい 鋼管ぐい、鋼管矢板、H鋼ぐい	試験状況		○	○	試験毎に1回	
			試験機械・設備		○			
	ぐいの載荷試験	ぐいの載荷試験	試験状況		○		試験毎に1回	
			試験機械・設備		○			
ケーソン工	刃口用くつ	現場溶接	施工		○		設計寸法毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	オープンケーソン沈下	ニューマチックケーソン沈下	施工		○		設計寸法毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
申請工	申請工	施工		○		設計寸法毎に1回		
		使用機械	○			機械毎に1回		
その他	その他	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回		
		使用機械	○			機械毎に1回		
		その他		○	○	適宜		

工種	種別	項目 (PHOTO.XMLにおける「細別」)	撮影項目	撮影時期			撮影頻度	
				施工前 (着手前)	施工中 (状況)	施工後 (完成)		
コンクリート構造物工	擁壁工	場所打ち擁壁工	施工	○	○	○	規格毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	橋梁下部工	橋台・橋脚工	施工	○	○	○	規格毎に1回	
			首座の位置			○		
	RC・PC・鋼上部分工	RC・PC・鋼上部分工	施工	○	○	○	1橋毎に1回	
			型わく(床版)			○	1橋毎に1回	
	地覆・高欄工	地覆・高欄工	施工	○	○	○	1橋毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	その他	その他	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
その他	その他	その他		○	○	適宜		
		使用機械	○			機械毎に1回		
PC構造物工	PC構造物緊張工	PC鋼材引張	施工	○	○	○	1橋毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	PC構造物の架設	PC構造物の架設	施工	○	○	○	1橋毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	プレストレスPC部材	I型ゲタ I型ゲタ	施工	○	○	○	1橋毎に1回	
			シース位置確認		○	○	1橋・1桁毎に1回	
			グラウト注入		○	○	1橋・1桁毎に1回	
	PC部材付きπ型ラーメン橋	コンクリート打設	施工		○		1橋毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
			施工			○	1橋毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
			鉄筋(加工・組立)	施工		○	○	1橋毎に1回
			舗装	施工	○	○	○	1橋毎に1回
			使用機械	○			機械毎に1回	
			排水装置	施工			○	1橋毎に1回
			使用機械	○			機械毎に1回	
			伸縮装置	施工	○	○	○	1橋毎に1回
			アンカー鋼材配置				○	設計寸法毎に1回
			使用機械	○			機械毎に1回	
			支承	施工	○		○	1橋毎に1回
			アンカーボルトの形状				○	設計寸法毎に1回
	使用機械	○			機械毎に1回			
	その他	橋名板、橋歴板	施工			○	1橋毎に1回	
			施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
			その他		○	○	適宜	
			使用機械	○			機械毎に1回	
鋼構造物工	鋼構造物製作	部材製作	施工	○	○	○	1橋毎に1回	
			工場及び現場塗装		○	○	1橋毎に1回	
			溶接試験		○	○	試験毎に1回	
	鋼構造物防錆	鋼構造物防錆	施工	○	○	○	1橋毎に1回	
			鋼橋の輸送	施工	○	○	○	1橋毎に1回
			鋼製橋脚輸送	使用機械	○			機械毎に1回
	アンカーフレーム輸送	アンカーフレーム輸送						
	鋼構造物架設	鋼橋の架設	施工	○	○	○	1橋毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
			鋼製橋脚架設					
アンカーフレーム架設								
高力ボルト本締め			施工	○	○	○	1橋毎に1回	
鋼橋の現場溶接	鋼橋の現場溶接							
		鋼製橋脚の現場溶接						
その他	その他	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回		
		使用機械	○			機械毎に1回		
		その他		○	○	適宜		
		使用機械	○			機械毎に1回		
橋梁付属物工	支承工	ゴム支承	施工	○		○	1橋毎に1回	
			鋼製支承	アンカーボルトの形状			○	設計寸法毎に1回
			使用機械	○			機械毎に1回	
	伸縮装置工	鋼製フィンガージョイント	鋼製ジョイント	施工	○	○	○	1橋毎に1回
				アンカー鋼材配置			○	設計寸法毎に1回
				使用機械	○			機械毎に1回
				埋設ジョイント	施工	○	○	○
	排水装置工	排水管	排水管	施工			○	1橋毎に1回
				使用機械	○			機械毎に1回
	排水ます	排水ます	排水ます	施工			○	1橋毎に1回
				使用機械	○			機械毎に1回
	検査路工	検査路	検査路	施工			○	1橋毎に1回
				アンカーボルトの形状			○	設計寸法毎に1回
	橋名板工	橋名板	橋名板	施工			○	1橋毎に1回
				使用機械	○			機械毎に1回
	橋歴板工	橋歴板	橋歴板	施工			○	1橋毎に1回
				使用機械	○			機械毎に1回
	鋼製高欄工	鋼製高欄	鋼製高欄	施工	○	○	○	1橋毎に1回
				アンカーボルトの形状			○	設計寸法毎に1回
	落橋防止構造	落橋防止構造	落橋防止構造	施工	○		○	1橋毎に1回
				アンカーボルトの形状			○	設計寸法毎に1回
	その他	その他	その他	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回
				使用機械	○			機械毎に1回
				その他		○	○	適宜
				使用機械	○			機械毎に1回
	その他	その他	その他	その他		○	○	適宜
				使用機械	○			機械毎に1回

工種	種別	項目 (PHOTO, XMLにおける「細別」)	撮影項目	撮影時期			撮影頻度
				施工前 (着手前)	施工中 (状況)	施工後 (完成)	
トンネル工	トンネル掘削	トンネル掘削	施工		○		掘削工法、地山区分毎に1回
			切羽状況		○		1日に1回
	使用機材	○			機材毎に1回		
	吹付けコンクリート工	吹付けコンクリート工	施工		○		掘削工法、地山区分毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
	ロックボルト工	ロックボルト工	施工		○	○	掘削工法、地山区分毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
	鋼アーチ支保工	鋼アーチ支保工	施工		○	○	掘削工法、地山区分毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
	金網工	金網工	施工		○		掘削工法、地山区分毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
	ずり処理工	ずり処理工	施工（仮置場からの搬出）		○		仮置場毎に1回
			施工（敷均し、締固め）		○		施工箇所毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
	インバート工	インバート工	施工	○	○	○	地山区分毎に1回
			使用機材		○		機材毎に1回
	インバート埋戻し工	インバート埋戻し工	施工		○		材料が異なる毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
	覆工	覆工コンクリート	施工		○		掘削工法、地山区分毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
	計測工	計測工A 計測工B	計測		○		種別毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
	覆工防水工	覆工防水工	施工		○		材料が異なる毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
	裏面排水工	裏面排水工	施工		○		材料が異なる毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
	路盤排水工	路盤排水工	施工		○		材料が異なる毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
			モデル施工 ブルーローリング		○ ○		モデル施工毎に1回 試験毎に1回
	監視員通路工	監視員通路工	施工		○		形状が異なる毎に1回
使用機材			○			機材毎に1回	
内装工	内装工	施工		○	○	材料が異なる毎に1回	
		使用機材	○			機材毎に1回	
箱抜工	箱抜工	施工		○	○	対象施設毎に1回	
		使用機材	○			機材毎に1回	
汚濁水処理工	汚濁水処理工 泥土処理工	施工		○		処理能力毎に1回	
		使用機材	○			機材毎に1回	
仮設備工	トンネル仮設備	仮設備状況	○	○	○	仮設備ヤード毎に1回	
		はく落対策工	懸垂シート系工法 ネット系・植系工法	○ ○	○ ○	○ ○	施工箇所毎に1回 機材毎に1回
その他	その他	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
		使用機材	○			機材毎に1回	
		その他		○	○	適宜	
舗装工	路盤準備工	路盤準備工	施工	○	○	○	種別及び検査毎に1回
			使用機材	○			試験毎に1回
			ブルーローリング		○		試験毎に1回
	粒状路盤工	下層路盤 上層路盤	施工	○	○	○	種別及び施工箇所毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
	セメント安定処理路盤工	下層路盤 上層路盤	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
	アスファルト混合物	加熱アスファルト安定処理路盤工 アスファルトコンクリート基層工 アスファルトコンクリート中間層工 アスファルトコンクリート橋梁レベリング層工 アスファルトコンクリート表層工	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
	瀝青材散布工	プライムコート タックコート 中央分離帯アスファルトシール工	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
	セメントコンクリート舗装版工	連続鉄筋コンクリート舗装版 コンクリート舗装版	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
	目地工	縦目地 切削目地 打込目地 膨張目地	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
	オーバーレイ工	オーバーレイ工	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回
			使用機材	○			機材毎に1回
切削オーバーレイ工	切削オーバーレイ工	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
		使用機材	○			機材毎に1回	
打換工	打換工	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
		使用機材	○			機材毎に1回	
段差修正工	段差修正工	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
		使用機材	○			機材毎に1回	

工種	種別	項目 (PHOTO, XMLにおける「細別」)	撮影項目	撮影時期			撮影頻度	
				施工前 (着手前)	施工中 (状況)	施工後 (完成)		
舗装工 (続き)	レベリング工	アスファルト表層混合物	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
		アスファルト基層混合物	使用機械	○			機械毎に1回	
		アスファルト安定処理混合物						
	わだち整正工	わだち整正工	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	床版防水工	樹脂系床版防水層 シート系床版防水層	施工	○	○	○	種別毎に1回	
			使用機械		○		試験毎に1回	
			床版防水記録表				橋梁毎に1回	
	その他	その他	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
その他				○	○	適宜		
造園工	植生基盤整備工	客土工	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
		基盤改良工	使用機械	○			機械毎に1回	
	植樹工	植樹	施工	○	○	○	樹木が異なるごとに1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	移植工	移植	施工	○	○	○	樹木が異なるごとに1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	生垣工	生垣	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	支柱工	支柱	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	根廻工	根廻	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	幹巻工	幹巻	施工	○	○	○	樹木が異なるごとに1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	マルチング工	シートマルチング ボードマルチング チップマルチング	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
	舗装工	インターロッキングブロック舗装 コンクリート平板舗装 洗出し平板舗装 陶板舗装 レンガ舗装 人研ぎ平板舗装 カラー平板舗装 タイル舗装 石張舗装 小舗石舗装 コンクリート舗装	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
園地緑石工	コンクリート緑石	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回		
		使用機械	○			機械毎に1回		
樹木名標板工	樹木名標板	施工		○		樹木が異なるごとに1回		
景石据付工	捨石 石組	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回		
		使用機械	○			機械毎に1回		
その他	その他	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回		
		使用機械	○			機械毎に1回		
		その他		○	○	適宜		
交通安全施設工	防護柵工	ガードレール ガードケーブル ボックスビーム 中央分離帯開口部防護柵	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
		ガードケーブル端末	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
				基礎工		○	○	施工箇所毎に1回
		ガードブロック	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
				使用機械	○			機械毎に1回
		コンクリート防護柵	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
				使用機械	○	○		機械毎に1回
		立入防止柵工	立入防止柵 立入防止柵の出入口	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回
				使用機械	○			機械毎に1回
	けん(眩)光防止施設工	けん(眩)光防止網 しゃ光ネット けん(眩)光防止板	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	中央分離帯転落防止柵工	中央分離帯転落防止柵	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	落下物防止柵工	落下物防止柵	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	防護柵改良工	ガードレール ガードケーブル ガードケーブル端末 ボックスビーム 中央分離帯開口部防護柵	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
			使用機械	○			機械毎に1回	
	立入防止柵改良工	立入防止柵 立入防止柵の出入口	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
使用機械			○			機械毎に1回		
再生亜鉛めっき工	再生亜鉛めっき工	施工	○	○	○	材料種別毎に1回		
その他	その他	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回		
		使用機械	○			機械毎に1回		
		その他		○	○	適宜		

工種	種別	項目 (PHOTO.XMLにおける「種別」)	撮影項目	撮影時期			撮影頻度	
				施工前 (着手前)	施工中 (状況)	施工後 (完成)		
交通管理施設工	標識工	標識基礎工	施工	○	○	○	規格毎に1回	
		基礎ぐい	使用機材	○			機材毎に1回	
		標識柱						
		標識板(反射式)						
		標識板(内部照明式)						
	路面標示工	水性型	施工	○	○	○	規格毎に1回	
		加熱型	使用機材	○			機材毎に1回	
		溶融型						
		路面標示標準型						
		路面標示 JIS 規格型						
	視線誘導標工	視線誘導標	施工	○	○	○	規格毎に1回	
			使用機材	○			機材毎に1回	
	距離標工	距離標	施工	○	○	○	規格毎に1回	
			使用機材	○			機材毎に1回	
	管路工	土工部管路工 橋梁、高架部管路工 トンネル部管路工 管路付帯工 ハンドホール工 非常電話基礎工 非常電話用内照標識工 非常電話照明電源引込工 照明ホール基礎工	施工	○	○	○	規格毎に1回	
			使用機材	○			機材毎に1回	
車線分離標工	車線分離標	施工	○	○	○	規格毎に1回		
		使用機材	○			機材毎に1回		
その他	その他	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回		
		使用機材	○			機材毎に1回		
		その他		○	○	○	適宜	
橋梁保全工	伸縮装置取替工	鋼製フィンガージョイント	施工	○	○	○	規格毎に1回	
		鋼製ジョイント 埋設ジョイント	使用機材	○			機材毎に1回	
	塗替塗装工	塗替塗装(一般部)	施工	○	○	○	規格毎に1回	
		塗替塗装(特殊部)	使用機材	○			機材毎に1回	
		塗替塗装(箱桁内面)						
		塗替塗装(橋梁付属物)						
		曲面加工(R面取り)						
	床版上面増厚工	床版上面増厚工	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回	
			使用機材	○			機材毎に1回	
	落橋防止工	縁端拡幅工B 縁端拡幅工M 落橋防止構造	施工	○	○	○	規格毎に1回	
			使用機材	○			機材毎に1回	
			アンカーボルトの形状			○	設計寸法毎に1回	
	壁高欄補修工	壁高欄補修	施工	○	○	○	規格毎に1回	
			排水管	○	○	○	規格毎に1回	
	排水装置取替工	排水ます	施工	○	○	○	規格毎に1回	
			使用機材	○			機材毎に1回	
	超速硬コンクリート	超速硬コンクリート	施工	○	○	○	規格毎に1回	
			使用機材	○			機材毎に1回	
	耐震補強工	コンクリート表面処理工	施工	○	○	○	規格毎に1回	
			耐震補強用鋼板の製作	使用機材			○	機材毎に1回
			耐震補強用鋼板の輸送					
		耐震補強用鋼板の架設	施工	○	○	○	規格毎に1回	
			使用機材	○			機材毎に1回	
		耐震補強用鋼板の現場溶接	施工	○	○	○	規格毎に1回	
			使用機材	○			機材毎に1回	
		溶接試験			○	○	試験毎に1回	
		耐震補強用充填工	施工	○	○	○	規格毎に1回	
			耐震補強用鋼板の塗装	使用機材			○	機材毎に1回
		炭素繊維巻立て下地処理工	施工	○	○	○	規格毎に1回	
			炭素繊維巻立て表面仕上げ工	使用機材			○	機材毎に1回
		炭素繊維巻立て工	施工	○	○	○	規格毎に1回	
	連続繊維ロープ巻付け工		使用機材	○			機材毎に1回	
	制震ダンパー	施工	○	○	○	規格毎に1回		
使用機材		○			機材毎に1回			
はく落防止工	事前調査	施工	○	○	○	規格毎に1回		
	事前処理工	使用機材	○			機材毎に1回		
	ひび割れ注入工	設置記録表			○	箇所毎に1回		
	断面修復工							
	連続繊維シート接着工							
鋼橋の炭素繊維シート接着工	下地処理	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回		
	プライマー塗布	使用機材	○			機材毎に1回		
	不陸修正							
	高伸度弾性パテ材用プライマー・パテ材塗布							
	炭素繊維シート接着							
その他	その他	仕上げ・保護						
		施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回		
		使用機材	○			機材毎に1回		
		その他		○	○	適宜		

工種	種別	項目 (PHOTO、M/Lにおける「細別」)	撮影項目	撮影時期			撮影頻度
				施工前 (着手前)	施工中 (状況)	施工後 (完成)	
遮音壁工	遮音壁本体工	支柱、遮音板、土留壁	施工	○	○	○	規格毎に1回
			使用機械	○			機械毎に1回
	遮音壁外装板工	遮音壁外装板工	施工	○	○	○	規格毎に1回
			使用機械	○			機械毎に1回
	遮音壁基礎ぐい工	鋼管ぐい 基礎工	施工	○	○	○	規格毎に1回
			使用機械	○			機械毎に1回
	遮音壁付属物工	PL(天端水切り板) 支柱落下防止装置 遮音壁用アンカーボルト 遮音壁管理用階段工	施工	○	○	○	規格毎に1回
			使用機械	○			機械毎に1回
その他	その他	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
		使用機械	○			機械毎に1回	
		その他		○	○	適宜	
雑工	境界ぐい工	用地境界ぐい 用地境界紙 道路敷界ぐい 道路敷界紙	施工	○	○	○	1工事に1回
	敷砂利工	敷砂利工	施工	○	○	○	1工事に1回
			使用機械	○			機械毎に1回
	簡易舗装工	粒度調整路盤工 切込砕石路盤工 切込砂利路盤工 加熱アスファルト表層工 加熱アスファルト基層工 加熱アスファルト安定処理路盤工	施工	○	○	○	規格毎に1回
			使用機械	○			機械毎に1回
	縁石工	アスファルト縁石 工場製コンクリート縁石	施工	○	○	○	規格毎に1回
			使用機械	○			機械毎に1回
	構造物背面転圧工	構造物背面転圧工	施工	○	○	○	1工事に1回
			使用機械	○			機械毎に1回
	立入禁止板	立入禁止板	施工	○	○	○	施工箇所毎に1回
			使用機械	○			機械毎に1回
	踏掛版工	踏掛版工	施工	○	○	○	規格毎に1回
			使用機械	○			機械毎に1回
	コンクリートシール工	コンクリートシール工	施工	○	○	○	1工事に1回
	カルバート番号板	カルバート番号板	施工	○	○	○	1工事に1回
	構造物等取壊し工	コンクリート構造物取壊し アスファルト舗装版取壊し コンクリート舗装版取壊し	施工	○	○	○	規格毎に1回
			使用機械	○			機械毎に1回
その他	その他	施工	○	○	○	単価表の項目毎に1回	
		使用機械	○			機械毎に1回	
		その他		○	○	適宜	
交通規制	交通規制	交通規制	施工			○	施工箇所毎に1回

工事管理項目の記入方法

基礎情報

項目名	メディア番号
データ表現	半角数字
文字数	8
概要	電子媒体のメディア番号を記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	3枚組CD-R の2枚目の場合 メディア番号: 2
XML 表記例	<メディア番号>2</メディア番号>
備考	単一の電子媒体の場合は“1”となる
記入規則	半角数字のみ使用する。空欄不可

項目名	メディア総枚数
データ表現	半角数字
文字数	8
概要	電子媒体の総枚数を記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	3枚組CD-R の場合 メディア総枚数: 3
XML 表記例	<メディア総枚数>3</メディア総枚数>
備考	なし
記入規則	半角数字のみ使用する。空欄不可

項目名	適用要領
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	30
概要	適用した基準名称
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	次のとおり記入する 適用基準: 工事記録写真等撮影要領 平成28年7月
XML 表記例	<適用基準>工事記録写真等撮影要領 平成28年7月</適用基準>
備考	なし
記入規則	写真管理ソフトウェアが自動的に記入することが望ましい。PHOTO.XML ファイルを他の写真管理ソフトウェアで修正した場合は、上書きして書き換える。

項目名	写真フォルダ名
データ表現	半角英数大文字
文字数	5 固定
概要	写真フォルダ、参考図フォルダ、写真属性情報ファイルを格納するフォルダ名を記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	次のとおり記入する 写真フォルダ名: <input type="text" value="PHOTO"/>
XML 表記例	<写真フォルダ名>PHOTO</写真フォルダ名>
備考	なし
記入規則	空欄不可

ソフトウェア情報

項目名	ソフトウェア名
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	64
概要	工事管理ファイルを作成したソフトウェア名
記入必要度	条件付き必須記入
記入が必要な場合	PHOTO_JH.XML の作成及び修正にソフトウェアを使用した場合は必須記入
記入例	ソフトウェアが“○○管理ソフト Ver.2.01A”であった場合 ソフトウェア名: <input type="text" value="○○管理ソフト"/>
XML 表記例	<ソフトウェア名>○○管理ソフト</ソフトウェア名>
備考	なし
記入規則	管理ソフトウェアが自動的に記入することが望ましい。PHOTO_JH.XML ファイルを他の管理ソフトウェアで修正した場合は、上書きして書き換える。

項目名	バージョン情報
データ表現	半角英数字
文字数	127
概要	工事管理ファイルを作成したソフトウェアのバージョン情報
記入必要度	条件付き必須記入
記入が必要な場合	PHOTO_JH.XML の作成及び修正にソフトウェアを使用した場合は必須記入
記入例	ソフトウェアが“○○管理ソフト Ver.2.01A”であった場合 バージョン情報: <input type="text" value="Ver.2.01A"/>
XML 表記例	<バージョン情報>Ver.2.01A</バージョン情報>
備考	なし
記入規則	管理ソフトウェアが自動的に記入することが望ましい。PHOTO_JH.XML ファイルを他の管理ソフトウェアで修正した場合は、上書きして書き換える。

項目名	メーカー名
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	64
概要	工事管理ファイルを作成したソフトウェアを開発したメーカー名
記入必要度	条件付き必須記入
記入が必要な場合	PHOTO_JH.XML の作成及び修正にソフトウェアを使用した場合は必須記入
記入例	メーカー名が“〇〇システム株式会社”であった場合 メーカー名: <input type="text" value="〇〇システム株式会社"/>
XML 表記例	<メーカー名>〇〇システム株式会社</メーカー名>
備考	なし
記入規則	管理ソフトウェアが自動的に記入することが望ましい。PHOTO_JH.XML ファイルを他の管理ソフトウェアで修正した場合は、上書きして書き換える。

項目名	メーカー連絡先
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	工事管理ファイルを作成したソフトウェアを開発したメーカーの住所、電話番号等連絡先情報を記入する
記入必要度	条件付き必須記入
記入が必要な場合	PHOTO_JH.XML の作成及び修正にソフトウェアを使用した場合は必須記入
記入例	メーカー連絡先が“東京都千代田区1-1-1 TEL:03-12~78 FAX:03-87~21”であった場合 メーカー連絡先: <input type="text" value="東京都千代田区1-1-1 TEL:03-12~78 FAX:03-87~21"/>
XML 表記例	<メーカー連絡先>東京都千代田区1-1-1 TEL:03-12~78 FAX:03-87~21</メーカー連絡先>
備考	なし
記入規則	管理ソフトウェアが自動的に記入することが望ましい。PHOTO_JH.XML ファイルを他の管理ソフトウェアで修正した場合は、上書きして書き換える。

項目名	ソフトメーカー用TAG
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	ソフトウェアメーカー使用欄
記入必要度	任意記入
記入が必要な場合	ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。
記入例	省略
XML 表記例	省略
備考	なし
記入規則	PHOTO_JH.XML を他のソフトウェアで修正した場合は、必要に応じて上書き、または削除する。

工事件名等

項目名	発注年度
データ表現	半角数字
文字数	4 固定
概要	工事の発注年度を西暦4桁で記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	平成28年度発注の工事の場合 発注年度: <input type="text" value="2016"/>
XML 表記例	<発注年度>2016</発注年度>
備考	なし
記入規則	必ず半角数字4桁で記入する。空欄不可

項目名	工事番号
データ表現	半角数字
文字数	127
概要	契約図書に記載されている契約番号を記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	東日本高速道路株式会社と契約し、その契約図書に記載されている契約 番号が1234567890 の場合 工事番号: <input type="text" value="0101234567890"/>
XML 表記例	<工事番号>0101234567890</工事番号>
備考	なし
記入規則	空欄不可 契約番号の先頭に、発注者が東日本高速道路㈱の場合は「010」、中日本高速 道路㈱の場合は「020」、西日本高速道路㈱の場合は「030」を付け加える

項目名	路線水系名等
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	高速道路名、一般有料道路名、施設名等、施工場所に関する路線名等を記入する
記入必要度	条件付き必須記入(データが分かる場合は必ず記入する)
記入が必要な場合	施工場所が明確である場合は記入する
記入例	近畿自動車道名古屋神戸線に関する工事の場合 路線水系名等: 近畿自動車道名古屋神戸線 東名高速道路に関する工事の場合 路線水系名等: 東名高速道路 那須高原SA と阿武隈PA に関する工事の場合(複数の場合) 路線水系名等: 那須高原SA, 阿武隈PA
XML 表記例	近畿自動車道名古屋神戸線に関する工事の場合 <路線水系名等>近畿自動車道名古屋神戸線</路線水系名等> 東名高速道路に関する工事の場合 <路線水系名等>東名高速道路</路線水系名等> 那須高原SA と阿武隈PA に関する工事の場合 <路線水系名等>那須高原SA, 阿武隈PA</路線水系名等>
備考	路線名等が複数の場合は、「,」(半角カンマ)により区切って記入する 不明な場合は監督員に問い合わせる
記入規則	入札時の金抜設計書に記載の路線名等を全て記入する

項目名	工事名称
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	契約書に記載されている工事名を記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	契約書に記載されている工事名称が東名高速道路横浜管内舗装補修工事の場合 工事名称: 東名高速道路横浜管内舗装補修工事
XML 表記例	<工事名称>東名高速道路横浜管内舗装補修工事</工事名称>
備考	なし
記入規則	契約図書に記載されている正式な工事名称を記入する。空欄不可。

項目名	工事分野
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	16
概要	コリンズ の「工事の分野」に従って記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	工事分野が「道路」の場合 工事分野: 道路
XML 表記例	<工事分野>道路</工事分野>
備考	不明な場合は監督員に問い合わせる
記入規則	空欄不可。

項目名	工事業種
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	16
概要	コリンズ の「工事の業種」に従って記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	工事の種類が塗装工事である場合 工事業種: 塗装工事
XML 表記例	<工事業種>塗装工事</工事業種>
備考	不明な場合は監督員に問い合わせる
記入規則	空欄不可。

項目名	工種
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	コリンズの「工種、工法・形式」の工種を記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	道路掘削等の土工事が主の場合 工種: 土工事
XML 表記例	<工種>土工事</工種>
備考	不明な場合は監督員に問い合わせる
記入規則	空欄不可。

項目名	工法形式
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	コリンズ の「工種、工法・形式」の工法・形式を記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	トンネル工事のうち、NATM による工事の場合 工法形式: NATM、矢板トンネル、TBM
XML 表記例	<工法形式>NATM、矢板トンネル、TBM</工法形式>
備考	不明な場合は監督員に問い合わせる
記入規則	空欄不可。

項目名	住所コード
データ表現	半角数字
文字数	5 固定
概要	コリンズ で使用する「施工場所コード」を記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	茨城県つくば市の場合 住所コード: 08220
XML 表記例	<住所コード>08220</住所コード>
備考	代表地点又は、施工場所の開始場所および終了場所のコードをコリンズの「施工場所コード」により選択し、記入する。
記入規則	複数記入可。空欄不可。 その他の場合の記入方法はコリンズの入力規則に従うものとする。

項目名	住所
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	施工場所(代表地点)の住所(県名以下)を詳細に記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	茨城県つくば市〇〇3 丁目〇〇番地の場合 住所: 茨城県つくば市〇〇3 丁目〇〇番地
XML 表記例	<住所>茨城県つくば市〇〇3 丁目〇〇番地</住所>
備考	当該項目はコリンズの「施工場所」に相当する。
記入規則	複数記入可。空欄不可。 代表地点又は、施工場所の開始場所および終了場所(県名以下の住所)を出来る限り詳細に記入する。

項目名	工期開始日
データ表現	半角数字、-(HYPHEN MINUS)
文字数	10 固定
概要	工期の開始日をCCYY-MM-DD 方式で記入する (CCYY:西暦の年数、MM:月、DD:日)
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	工期が平成28年11月27日より平成30年1月14日の場合 工期開始日: 2016-11-27
XML 表記例	<工期開始日>2016-11-27</工期開始日>
備考	当該項目はコリンズの「工期 開始日」に相当する。
記入規則	月日が1桁の場合“0”を付加して必ず10桁で記入する。空欄不可。 工事中止期間等の実工期の記載は不要

項目名	工期終了日
データ表現	半角数字、-(HYPHEN MINUS)
文字数	10 固定
概要	工期の終了日をCCYY-MM-DD 方式で記入する (CCYY:西暦の年数、MM:月、DD:日)
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	工期が平成28年11月27日より平成30年1月14日の場合 工期終了日: 2018-01-14
XML 表記例	<工期終了日>2018-01-14</工期終了日>
備考	当該項目はコリンズの「工期 終了日」に相当する。
記入規則	月日が1桁の場合“0”を付加して必ず10桁で記入する。空欄不可 工事中止期間等の実工期の記載は不要

項目名	工事内容
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	工事概要及び主工種とその数量を記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	土工事の場合 工事内容: 道路掘削 800,000m3、捨土掘削 150,000m3、C-BOX 2 基
XML 表記例	<工事内容>道路掘削 800,000m3、捨土掘削 150,000m3、C-BOX 2 基</工事内容>
備考	なし
記入規則	空欄不可

項目名	起点側測点-n
データ表現	半角英数字
文字数	4 固定
概要	起点側測点を認識するための情報を記入する
記入必要度	条件付き必須記入(データが分かる場合は必ず記入する)
記入が必要な場合	場所情報を記入する場合
記入例	起点側測点-n のn.m のn が“0015”であった場合 起点側測点-n: 0015
XML 表記例	<起点側測点-n>0015</起点側測点-n>
備考	場所情報の記入は、「測点」、「距離標」、「境界座標」の何れかを記入する。 特に「境界座標」を記入することが望ましい。
記入規則	必ず半角英数字4桁で記入する

項目名	起点側測点-m
データ表現	半角英数字
文字数	3 固定
概要	起点側測点を認識するための情報を記入する
記入必要度	条件付き必須記入(データが分かる場合は必ず記入する)
記入が必要な場合	場所情報を記入する場合
記入例	起点側測点-n のn.m のm が“008”であった場合 起点側測点-n: 008
XML 表記例	<起点側測点-m>008</起点側測点-m>
備考	場所情報の記入は、「測点」、「距離標」、「境界座標」の何れかを記入する。 特に「境界座標」を記入することが望ましい。
記入規則	必ず半角英数字3 桁で記入する

項目名	終点側測点-n
データ表現	半角英数字
文字数	4 固定
概要	終点側測点を認識するための情報を記入する
記入必要度	条件付き必須記入(データが分かる場合は必ず記入する)
記入が必要な場合	場所情報を記入する場合
記入例	終点側測点-n のn.m のn が“0036”であった場合 終点側測点-n: 0036
XML 表記例	<終点側測点-n>0036</終点側測点-n>
備考	場所情報の記入は、「測点」、「距離標」、「境界座標」の何れかを記入する。 特に「境界座標」を記入することが望ましい。
記入規則	必ず半角英数字4 桁で記入する

項目名	終点側測点・m
データ表現	半角英数字
文字数	3 固定
概要	終点側測点を認識するための情報を記入する
記入必要度	条件付き必須記入(データが分かる場合は必ず記入する)
記入が必要な場合	場所情報を記入する場合
記入例	終点側測点・n のn・m のm が“012”であった場合 終点側測点・n: 012
XML 表記例	<終点側測点・m>012</終点側測点・m>
備考	場所情報の記入は、「測点」、「距離標」、「境界座標」の何れかを記入する。 特に「境界座標」を記入することが望ましい。
記入規則	必ず半角英数字3 桁で記入する

項目名	起点側距離標・n
データ表現	半角英数字
文字数	4 固定
概要	起点側距離標を認識するための情報を記入する
記入必要度	条件付き必須記入(データが分かる場合は必ず記入する)
記入が必要な場合	場所情報を記入する場合
記入例	起点側距離標・n のn + m のn が“0031”であった場合 起点側距離標・n: 0031
XML 表記例	<起点側距離標・n>0031</起点側距離標・n>
備考	場所情報の記入は、「測点」、「距離標」、「境界座標」の何れかを記入する。 特に「境界座標」を記入することが望ましい。
記入規則	必ず半角英数字4 桁で記入する

項目名	起点側距離標・m
データ表現	半角英数字
文字数	3 固定
概要	起点側距離標を認識するための情報を記入する
記入必要度	条件付き必須記入(データが分かる場合は必ず記入する)
記入が必要な場合	場所情報を記入する場合
記入例	起点側距離標・m のn + m のm が“012”であった場合 起点側距離標・m: 012
XML 表記例	<起点側距離標・m>012</起点側距離標・m>
備考	場所情報の記入は、「測点」、「距離標」、「境界座標」の何れかを記入する。 特に「境界座標」を記入することが望ましい。
記入規則	必ず半角英数字3 桁で記入する

項目名	終点側距離標・n
データ表現	半角英数字
文字数	4 固定
概要	終点側距離標を認識するための情報を記入する
記入必要度	条件付き必須記入(データが分かる場合は必ず記入する)
記入が必要な場合	場所情報を記入する場合
記入例	終点側距離標・n のn + m のn が“0036”であった場合 終点側距離標・n: 0036
XML 表記例	<終点側距離標・n>0036</終点側距離標・n>
備考	場所情報の記入は、「測点」、「距離標」、「境界座標」の何れかを記入する。 特に「境界座標」を記入することが望ましい。
記入規則	必ず半角英数字4 桁で記入する

項目名	終点側距離標・m
データ表現	半角英数字
文字数	3 固定
概要	終点側距離標を認識するための情報を記入する
記入必要度	条件付き必須記入(データが分かる場合は必ず記入する)
記入が必要な場合	場所情報を記入する場合
記入例	終点側距離標・m のn + m のm が“067”であった場合 終点側距離標・m: 067
XML 表記例	<終点側距離標・m>067</終点側距離標・m>
備考	場所情報の記入は、「測点」、「距離標」、「境界座標」の何れかを記入する。特に「境界座標」を記入することが望ましい。
記入規則	必ず半角英数字3 桁で記入する

項目名	西側境界座標経度
データ表現	半角英数字
文字数	7 固定
概要	対象領域の最西端の外側境界を経度で記入
記入必要度	条件付き必須記入(データが分かる場合は必ず記入する)
記入が必要な場合	場所情報を境界座標で記入する場合
記入例	西側境界の経度が“138 度37 分30 秒”であった場合 西側境界座標経度: 1383730
XML 表記例	<西側境界座標経度>1383730</西側境界座標経度>
備考	場所情報の記入は、「測点」、「距離標」、「境界座標」の何れかを記入する。 特に「境界座標」を記入することが望ましい。
記入規則	必ず半角英数字7 桁で記入する

項目名	東側境界座標経度
データ表現	半角英数字
文字数	7 固定
概要	対象領域の最東端の外側境界を経度で記入
記入必要度	条件付き必須記入(データが分かる場合は必ず記入する)
記入が必要な場合	場所情報を境界座標で記入する場合
記入例	東側境界の経度が“138 度45 分00 秒”であった場合 東側境界座標経度: 1384500
XML 表記例	<東側境界座標経度>1384500</東側境界座標経度>
備考	場所情報の記入は、「測点」、「距離標」、「境界座標」の何れかを記入する。 特に「境界座標」を記入することが望ましい。
記入規則	必ず半角英数字7 桁で記入する

項目名	北側境界座標緯度
データ表現	半角英数字
文字数	7 固定
概要	対象領域の最北端の外側境界を緯度で記入
記入必要度	条件付き必須記入(データが分かる場合は必ず記入する)
記入が必要な場合	場所情報を境界座標で記入する場合
記入例	北側境界の緯度が“35 度35 分00 秒”であった場合 北側境界座標緯度: 0353500
XML 表記例	<北側境界座標緯度>0353500</北側境界座標緯度>
備考	場所情報の記入は、「測点」、「距離標」、「境界座標」の何れかを記入する。 特に「境界座標」を記入することが望ましい。
記入規則	必ず半角英数字7 桁で記入する

項目名	南側境界座標緯度
データ表現	半角英数字
文字数	7 固定
概要	対象領域の最南端の外側境界を緯度で記入
記入必要度	条件付き必須記入(データが分かる場合は必ず記入する)
記入が必要な場合	場所情報を境界座標で記入する場合
記入例	南側境界の緯度が“35度20分00秒”であった場合 南側境界座標緯度: 0352000
XML 表記例	<南側境界座標緯度>0352000</南側境界座標緯度>
備考	場所情報の記入は、「測点」、「距離標」、「境界座標」の何れかを記入する。 特に「境界座標」を記入することが望ましい。
記入規則	必ず半角英数字7 桁で記入する

項目名	施設名称
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	施設名称を記入する
記入必要度	条件付き必須記入(データが分かる場合は必ず記入する)
記入が必要な場合	施設情報を記入する場合
記入例	施設名称が“〇〇トンネル”であった場合 施設名称: <input type="text" value="〇〇トンネル"/>
XML 表記例	<施設名称>〇〇トンネル</施設名称>
備考	なし
記入規則	なし

項目名	発注者-大分類
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	16
概要	発注者の社名記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	○日本高速道路株式会社〇〇支社〇〇工事事務所の場合 発注者-大分類: <input type="text" value="○日本高速道路株式会社"/>
XML 表記例	<発注者-大分類>○日本高速道路株式会社</発注者-大分類>
備考	当該項目はコリンズの「発注機関名・中分類」に相当する
記入規則	略称を用いず、正式名称で記入する。空欄不可。

項目名	発注者-中分類
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	32
概要	局名、支社名などの発注者に関する中分類を記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	○日本高速道路株式会社〇〇支社〇〇工事事務所の場合 発注者-中分類: <input type="text" value="〇〇支社"/>
XML 表記例	<発注者-中分類>〇〇支社</発注者-中分類>
備考	当該項目はコリンズの「発注機関名・小分類」に相当する
記入規則	略称を用いず、正式名称で記入する。空欄不可。

項目名	発注者-小分類
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	30
概要	事務所名などの発注者に関する小分類を記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	○日本高速道路株式会社○○支社○○工事事務所の場合 発注者-小分類: <input type="text" value="○○工事事務所"/>
XML 表記例	<発注者-小分類>○○工事事務所</発注者-小分類>
備考	当該項目はコリンズの「発注機関名・細分類」に相当する
記入規則	略称を用いず、正式名称で記入する。空欄不可。

項目名	発注者コード
データ表現	半角数字
文字数	8 固定
概要	コリンズで使用する発注機関コードを記入する 大分類(1桁)、中分類(2桁)、小分類(2桁)、細分類(3桁)をあわせ、8桁で取り扱う。
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	○日本高速道路株式会社○○支社○○工事事務所の場合 発注者コード: <input type="text" value="10308104"/>
XML 表記例	<発注者コード>10308104</発注者コード>
備考	当該項目はコリンズの「発注機関コード」に相当する
記入規則	コリンズの「発注機関コード」に従い、必ず半角8桁で記入する。空欄不可。

項目名	受注者名
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	受注者の正式名称を記入する。JV の場合には、JV の正式名称及び代表会社名を続けて記入する。
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	◎◎自動車道○○工事△△建設□□組共同企業体の場合 受注者名: <input type="text" value="◎◎自動車道○○工事△△建設□□組共同企業体(代表:△△建設株式会社)"/>
XML 表記例	<受注者名>◎◎自動車道○○工事△△建設□□組共同企業体(代表:△△建設株式会社)</受注者名>
備考	当該項目はコリンズの「請負者名称」に相当する
記入規則	正式名称で記入する。JV(特定・経常)の場合には、代表会社名を記入する。空欄不可。

項目名	受注者コード
データ表現	半角数字
文字数	127
概要	発注者が定める受注者コードを記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	〇〇建設株式会社「0123456789」の場合 受注者コード: <input type="text" value="0123456789"/>
XML 表記例	<受注者コード>0123456789</受注者コード>
備考	
記入規則	空欄不可

項目名	予備
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	工事内容等に関する備考欄。予備欄
記入必要度	任意記入
記入が必要な場合	発注者側で特筆すべき予備項目がある場合は記入する
記入例	省略
XML 表記例	省略
備考	なし
記入規則	複数記入可

工事管理ファイル DTD

成果品の電子媒体に格納する工事管理ファイル(PHOTO_JH.XML) の
DTD(PHOT_JH4.DTD)を以下に示す。

```

<!--PHOT_JH4.DTD / 2012/07-->
<!ELEMENT constdata (基礎情報,ソフトウェア情報?,工事件名等,場所情報?,施設情報?,発注者情報,受注者情報,予備*)>
<!ATTLIST constdata DTD_version CDATA #FIXED "04">

<!--*****-->
<!-- 基礎情報 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 基礎情報 (メディア番号,メディア総枚数,適用要領,写真フォルダ名)>
  <!ELEMENT メディア番号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT メディア総枚数 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 適用要領 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 写真フォルダ名 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- ソフトウェア情報 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT ソフトウェア情報 (ソフトウェア名?,バージョン情報?,メーカー名?,メーカー連絡先?,ソフトメーカー用TAG?)>
  <!ELEMENT ソフトウェア名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT バージョン情報 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT メーカー名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT メーカー連絡先 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ソフトメーカー用TAG (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- 工事件名等 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 工事件名等 (発注年度,工事番号,路線水系名等?,工事名称,工事分野,工事業種,工種+,工法型式+,住所コード+,住所+,工期開始日,工期終了日,工事内容)>
  <!ELEMENT 発注年度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 工事番号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 路線水系名等 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 工事名称 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 工事分野 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 工事業種 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 工種 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 工法型式 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 住所コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 住所 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 工期開始日 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 工期終了日 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 工事内容 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- 場所情報 -->
<!--*****-->

```


<!ELEMENT 場所情報 (起点側測点-n?,起点側測点-m?,終点側測点-n?,終点側測点-m?,起点側距離標-n?,
起点側距離標-m?,終点側距離標-n?,終点側距離標-m?,西側境界座標経度?,東側境界座標経度?,北側境界座
標緯度?,南側境界座標緯度?)>

<!ELEMENT 起点側測点-n (#PCDATA)>
<!ELEMENT 起点側測点-m (#PCDATA)>
<!ELEMENT 終点側測点-n (#PCDATA)>
<!ELEMENT 終点側測点-m (#PCDATA)>
<!ELEMENT 起点側距離標-n (#PCDATA)>
<!ELEMENT 起点側距離標-m (#PCDATA)>
<!ELEMENT 終点側距離標-n (#PCDATA)>
<!ELEMENT 終点側距離標-m (#PCDATA)>
<!ELEMENT 西側境界座標経度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 東側境界座標経度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 北側境界座標緯度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 南側境界座標緯度 (#PCDATA)>

<!--*****-->

<!-- 施設情報 -->

<!--*****-->

<!ELEMENT 施設情報 (施設名称?)>

<!ELEMENT 施設名称 (#PCDATA)>

<!--*****-->

<!-- 発注者情報 -->

<!--*****-->

<!ELEMENT 発注者情報 (発注者-大分類,発注者-中分類,発注者-小分類,発注者コード)>

<!ELEMENT 発注者-大分類 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 発注者-中分類 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 発注者-小分類 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 発注者コード (#PCDATA)>

<!--*****-->

<!-- 受注者情報 -->

<!--*****-->

<!ELEMENT 受注者情報 (受注者名,受注者コード)>

<!ELEMENT 受注者名 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 受注者コード (#PCDATA)>

<!--*****-->

<!-- 予備 -->

<!--*****-->

<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>

工事管理ファイルXML 記入例

成果品の電子媒体に格納する工事管理ファイル(PHOTO_JH.XML) の記入例を以下に示す。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE constdata SYSTEM "PHOT_JH4.DTD">
<constdata DTD_version="04">

<基礎情報>
  <メディア番号>1</メディア番号>
  <メディア総枚数>1</メディア総枚数>
  <適用要領>工事記録写真等撮影要領 平成28年7月</適用要領>
  <写真フォルダ名>PHOTO</写真フォルダ名>
</基礎情報>

<ソフトウェア情報>
  <ソフトウェア名>工事記録写真ファイル作成システム</ソフトウェア名>
  <バージョン情報>1.0</バージョン情報>
  <メーカー名>沖縄ネクスコ総研株式会社</メーカー名>
  <メーカー連絡先>〇〇県△△市□□1-1・TEL:0xx-xxx-xxxxFAX:0xx-xxx-xxxx</メーカー連絡先>
</ソフトウェア情報>

<工事件名等>
  <発注年度>2016</発注年度>
  <工事番号>0101234567890</工事番号>
  <路線水系名等>東名高速道路</路線水系名等>
  <工事名称>〇〇地区路肩拡幅工事</工事名称>
  <工事分野>道路</工事分野>
  <工事業種>土木一式工事</工事業種>
  <工種>土工</工種>
  <工法型式>掘削または切土工</工法型式>
  <住所コード>08220</住所コード>
  <住所>茨城県つくば市〇〇3丁目〇〇番地</住所>
  <工期開始日>2016-11-27</工期開始日>
  <工期終了日>2018-01-14</工期終了日>
  <工事内容>掘削工8500m3、埋戻し工9500m3、コンクリート張1000m2</工事内容>
</工事件名等>

<場所情報>
  <起点側測点-n>0015</起点側測点-n>
  <起点側測点-m>008</起点側測点-m>
  <終点側測点-n>0018</終点側測点-n>
  <終点側測点-m>005</終点側測点-m>
  <起点側距離標-n>031</起点側距離標-n>
  <起点側距離標-m>045</起点側距離標-m>
  <終点側距離標-n>036</終点側距離標-n>
  <終点側距離標-m>067</終点側距離標-m>
  <西側境界座標経度>1383730</西側境界座標経度>
  <東側境界座標経度>1384500</東側境界座標経度>
  <北側境界座標緯度>0352500</北側境界座標緯度>
  <南側境界座標緯度>0352000</南側境界座標緯度>
</場所情報>

```

<施設情報>

<施設名称>〇〇インターチェンジ</施設名称>
</施設情報>

<発注者情報>

<発注者-大分類>〇日本高速道路株式会社</発注者-大分類>
<発注者-中分類>〇〇支社</発注者-中分類>
<発注者-小分類>〇〇工事事務所</発注者-小分類>
<発注者コード>10308104</発注者コード>
</発注者情報>

<受注者情報>

<受注者名>〇〇建設株式会社△△組共同企業体(代表:〇〇建設株式会社)</受注者名>
<受注者コード>0123456789</受注者コード>
</受注者情報>

<予備/>

</constdata>

写真管理項目の記入方法

基礎情報

項目名	写真フォルダ名
データ表現	半角英数大文字
文字数	5 固定
概要	写真ファイルを保存するフォルダ名をPHOTO.XMLのフォルダに対する相対パスで記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	次のとおり記入する 写真フォルダ名: <input type="text" value="/PIC"/>
XML 表記例	<写真フォルダ名>./PIC</写真フォルダ名>
備考	なし
記入規則	写真管理ソフトウェアが自動的に記入することが望ましい。 XML 規格に準拠し、フォルダは"/" (スラッシュ) で記述する。

項目名	参考図フォルダ名
データ表現	半角英数大文字
文字数	5 固定
概要	参考図ファイルを保存するフォルダ名をPHOTO.XMLのフォルダに対する相対パスで記入する
記入必要度	条件付き必須記入
記入が必要な場合	参考図がある場合に記入
記入例	次のとおり記入する 参考図フォルダ名: <input type="text" value="/DRA"/>
XML 表記例	<参考図フォルダ名>./DRA</参考図フォルダ名>
備考	なし
記入規則	写真管理ソフトウェアが自動的に記入することが望ましい。 XML 規格に準拠し、フォルダは"/" (スラッシュ) で記述する。

項目名	適用要領
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	30
概要	適用した基準名称
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	次のとおり記入する 適用基準: <input type="text" value="工事記録写真等撮影要領 平成28年7月"/>
XML 表記例	<適用基準>工事記録写真等撮影要領 平成28年7月</適用基準>
備考	なし
記入規則	写真管理ソフトウェアが自動的に記入することが望ましい。PHOTO.XML ファイルを他の写真管理ソフトウェアで修正した場合は、上書きして書き換える。

ソフトウェア情報

項目名	ソフトウェア名
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	64
概要	写真属性情報ファイルを作成したソフトウェア名
記入必要度	条件付き必須記入
記入が必要な場合	PHOTO.XML の作成及び修正にソフトウェアを使用した場合は必須記入
記入例	ソフトウェアが“デジ衛門 ネクスコ写真管理ソフト Ver.2.01A”であった場合 ソフトウェア名: デジ衛門 ネクスコ写真管理ソフト
XML 表記例	<ソフトウェア名>デジ衛門 ネクスコ写真管理ソフト</ソフトウェア名>
備考	なし
記入規則	管理ソフトウェアが自動的に記入することが望ましい。PHOTO.XML ファイルを他の管理ソフトウェアで修正した場合は、上書きして書き換える。

項目名	バージョン情報
データ表現	半角英数字
文字数	127
概要	写真属性情報ファイルを作成したソフトウェアのバージョン情報
記入必要度	条件付き必須記入
記入が必要な場合	PHOTO.XML の作成及び修正にソフトウェアを使用した場合は必須記入
記入例	ソフトウェアが“デジ衛門 ネクスコ写真管理ソフト Ver.2.01A”であった場合 バージョン情報: Ver.2.01A
XML 表記例	<バージョン情報>Ver.2.01A</バージョン情報>
備考	なし
記入規則	管理ソフトウェアが自動的に記入することが望ましい。PHOTO.XML ファイルを他の管理ソフトウェアで修正した場合は、上書きして書き換える。

項目名	メーカー名
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	64
概要	写真属性情報ファイルを作成したソフトウェアを開発したメーカー名
記入必要度	条件付き必須記入
記入が必要な場合	PHOTO.XML の作成及び修正にソフトウェアを使用した場合は必須記入
記入例	メーカー名が“〇〇システム株式会社”であった場合 メーカー名: 〇〇システム株式会社
XML 表記例	<メーカー名>〇〇システム株式会社</メーカー名>
備考	なし
記入規則	管理ソフトウェアが自動的に記入することが望ましい。PHOTO.XML ファイルを他の管理ソフトウェアで修正した場合は、上書きして書き換える。

項目名	メーカー連絡先
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	業務管理ファイルを作成したソフトウェアを開発したメーカーの住所、電話番号等連絡先情報を記入する
記入必要度	条件付き必須記入
記入が必要な場合	PHOTO.XML の作成及び修正にソフトウェアを使用した場合は必須記入
記入例	“東京都千代田区1-1-1 TEL:03-12～78 FAX:03-87～21”であった場合 メーカー連絡先: 東京都千代田区1-1-1 TEL:03-12～78 FAX:03-87～21
XML 表記例	<メーカー連絡先>東京都千代田区1-1-1 TEL:03-12～78 FAX:03-87～21</メーカー連絡先>
備考	なし
記入規則	管理ソフトウェアが自動的に記入することが望ましい。PHOTO.XML ファイルを他の管理ソフトウェアで修正した場合は、上書きして書き換える。

項目名	ソフトメーカー用TAG
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	ソフトウェアメーカー使用欄
記入必要度	任意記入
記入が必要な場合	ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。
記入例	省略
XML 表記例	省略
備考	なし
記入規則	同一ファイル中に複数の記入が可能とする。 PHOTO.XML ファイルを他の管理ソフトウェアで修正した場合は、必要に応じて上書きまたは削除する。

写真ファイル情報

項目名	シリアル番号
データ表現	半角数字
文字数	7
概要	電子写真の通し番号
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	写真ファイル“P0000150.JPG”が150 枚目の写真のとき シリアル番号: 150
XML 表記例	<シリアル番号>150</シリアル番号>
備考	写真管理ソフトウェアが自動的に記入することが望ましい。 コア写真とコア写真整理結果は、閲覧性を高めるために連番となるように採番することが望ましい。
記入規則	シリアル番号は「1」から開始する。提出時の電子媒体を通して、一連のまとまった写真についてユニークであれば中抜けしてもよい。 123 枚目を“0000123”の様に「0」を付けて表現してはならない。

項目名	写真ファイル名
データ表現	半角英数大文字
文字数	12 固定
概要	写真ファイル名称を拡張子も含めて記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	写真ファイル名を“P0000150.JPG”とした場合 写真ファイル名: <input type="text" value="P0000150.JPG"/>
XML 表記例	<写真ファイル名>P0000150.JPG</写真ファイル名>
備考	なし
記入規則	先頭文字1 桁(P固定) + 重複しない任意の7 桁の数字で記入する

項目名	メディア番号
データ表現	半角数字
文字数	8
概要	写真の含まれる電子媒体のメディア番号
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	CD-ROM の2 枚目の場合 メディア番号: <input type="text" value="2"/>
XML 表記例	<メディア番号>2</メディア番号>
備考	一連のまとまった写真について、保存されている電子媒体番号を記入する.単一の電子媒体であれば、全て“1”となる.
記入規則	空欄不可

撮影工種区分

項目名	写真-大分類
データ表現	全角文字(ただし英数字は含まない)
文字数	8
概要	写真を撮影した業務の分類
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	工事写真の場合 写真-大分類: <input type="text" value="工事"/>
XML 表記例	<写真-大分類>工事</写真-大分類>
備考	なし
記入規則	工事写真は常に「工事」とのみ記入することとし、「道路工事」といった表現は不可とする

項目名	写真区分
データ表現	全角文字
文字数	127
概要	工事記録写真等撮影要領の写真分類を記入する。
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	着手前写真の場合 写真区分: <input type="text" value="着手前写真"/>
XML 表記例	着手前写真の場合 <写真区分>着手前写真</写真区分>
備考	なし
記入規則	大分類が「工事」の場合、「着手前写真、施工状況写真、検査写真、安全管理写真、完成写真、災害写真その他写真」の区分のいずれかを全角文字で正しく記入する

項目名	工種
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	「表-1 施工状況写真撮影箇所一覧表」の工種から記入する
記入必要度	条件付き必須記入
記入が必要な場合	工種以下の分類が明確で、記入可能であれば記入する
記入例	のり面の種子吹付の施工状況写真の場合 工種: <input type="text" value="のり面"/> トンネルの鋼製支保の材料検査写真の場合 工種: <input type="text" value="トンネル工"/>
XML 表記例	<工種>のり面</工種> <工種>トンネル工</工種>
備考	なし
記入規則	「着手前写真、その他写真」の場合は記入不要

項目名	種別
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	「表-1 施工状況写真撮影箇所一覧表」の種別から記入する 該当する種別が、「表-1 施工状況写真撮影箇所一覧表」にない場合は「その他」とした上で、写真タイトルの方に具体的に記入する
記入必要度	条件付き必須記入
記入が必要な場合	工種以下の分類が明確で、記入可能であれば記入する
記入例	のり面の種子吹付の施工状況写真の場合 種別: 植生工
XML 表記例	<種別>植生工</種別>
備考	なし
記入規則	「着手前写真、完成写真、その他写真」の場合は記入不要

項目名	細別
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	「表-1 施工状況写真撮影箇所一覧表」の項目から記入する 該当する項目が、「表-1 施工状況写真撮影箇所一覧表」にない場合は「その他」とした上で、写真タイトルの方に具体的に記入する
記入必要度	条件付き必須記入
記入が必要な場合	工種以下の分類が明確で、記入可能であれば記入する
記入例	のり面の種子吹付の施工状況写真の場合 細別: 種子吹付 道路保全工事における鋼製伸縮装置取替工の施工状況写真の場合 細別: 鋼製ジョイント
XML 表記例	<細別>種子吹付</細別> <細別>鋼製ジョイント</細別>
備考	なし
記入規則	「着手前写真、完成写真、その他写真」の場合は記入不要

項目名	写真タイトル
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	「表-1 施工状況写真撮影箇所一覧表」の撮影項目名称、写真種類名、撮影時期等を組み合わせて、写真の撮影内容がわかるようにタイトルを記入する。
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	道路土工の施工機械写真の場合 写真タイトル: 施工機械:0.7m3 バックホウ
XML 表記例	<写真タイトル>施工機械:0.7m3 バックホウ</写真タイトル>
備考	なし
記入規則	なし

項目名	工種区分予備
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	「表-1 施工状況写真撮影箇所一覧表」の変更に対応するための予備項目である
記入必要度	任意記入
記入が必要な場合	「表-1 施工状況写真撮影箇所一覧表」の変更に対応するための予備項目である
記入例	省略
XML 表記例	省略
備考	「表-1 施工状況写真撮影箇所一覧表」の変更に対応するための予備項目である
記入規則	複数記入可

付加情報

項目名	参考図ファイル名
データ表現	半角英数大文字
文字数	12 固定
概要	写真の撮影位置を示す位置図面等のファイル名を記入する
記入必要度	条件付き必須記入
記入が必要な場合	小黒板に記した図の判読が困難な場合、または当該写真に関し撮影位置、撮影状況等を説明するために位置図面または凡例図等の参考図を添付する場合に記入
記入例	写真に位置平面図等を添付した場合 参考図ファイル名: D0000001.JPG
XML 表記例	<参考図ファイル名>D0000001.JPG</参考図ファイル名>
備考	参考図ファイルはJPEG またはTIFF 形式で、必要な情報が判読可能なものとする
記入規則	先頭文字1 桁(D 固定)+重複しない任意の数字7 桁で記入する

項目名	参考図タイトル
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	参考図の内容が判るようなタイトルを記入する
記入必要度	条件付き必須記入
記入が必要な場合	小黒板に記した図の判読が困難な場合、または当該写真に関し撮影位置、撮影状況等を説明するために位置図面または凡例図等の参考図を添付する場合に記入
記入例	参考図ファイルとして“位置平面図”を添付した場合 参考図タイトル: 位置平面図
XML 表記例	<参考図タイトル>位置平面図</参考図タイトル>
備考	なし
記入規則	なし

項目名	付加情報予備
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	参考図、撮影箇所等の付加情報に関する予備項目
記入必要度	任意記入
記入が必要な場合	受注者側で特記すべき事項がある場合に記入する
記入例	省略
XML 表記例	省略
備考	なし
記入規則	なし

撮影情報

項目名	撮影箇所
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	当該写真に関する測点(KP、STA)及び上下線の別、撮影対象までの距離、撮影内容等を簡潔に記入する。また、撮影位置図上に複数撮影位置が記載されている場合には、位置図上の記号等を記入する。
記入必要度	条件付き必須記入
記入が必要な場合	小黒板に記した図等の判読が困難など、施工状況確認に必要な場合記入する
記入例	152.63KP(上)の場合 撮影箇所: 152.63KP、上り線
XML 表記例	<撮影箇所>152.63KP、上り線</撮影箇所>
備考	なし
記入規則	なし

項目名	撮影年月日
データ表現	半角数字、-(HYPHEN MINUS)
文字数	10 固定
概要	写真を撮影した日付 CCYY-MM-DD 方式(西暦年月日)で記入する
記入必要度	必須記入
記入が必要な場合	必須記入
記入例	撮影日が平成28年11月27日の場合 撮影年月日: 2016-11-27
XML 表記例	<撮影年月日>2016-11-27</撮影年月日>
備考	なし
記入規則	月または日が1桁の場合、“0”を付加して必ず10桁で記入する。 空欄不可

施工管理値

項目名	施工管理値
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	設計寸法および実測寸法等を記入する
記入必要度	条件付き必須記入
記入が必要な場合	小黑板の判読が困難な場合、記入する
記入例	As舗装の設計寸法が40mm で、実測寸法が42mm の場合 施工管理値: As 舗装:設計寸法40mm・実測寸法42mm
XML 表記例	<施工管理値>As 舗装:設計寸法40mm・実測寸法42mm </施工管理値>
備考	なし
記入規則	なし

その他

項目名	受注者説明文
データ表現	全角文字、半角英数字
文字数	127
概要	その他、写真に関して受注者側で説明を記入するための項目
記入必要度	任意記入
記入が必要な場合	受注者側で特記すべき事項がある場合に記入する
記入例	省略
XML 表記例	省略
備考	なし
記入規則	なし

写真属性情報ファイル DTD

電子媒体に格納する写真属性情報ファイル(PHOTO.XML)のDTD(PHOTO04.DTD)を以下に示す。

```

<!-- PHOTO04.DTD / 2012/07 -->
<!ELEMENT photodata (基礎情報,ソフトウェア情報?,写真情報+)>
<!ATTLIST photodata DTD_version CDATA #FIXED "04">

<!-- ***** -->
<!-- 基礎情報-->
<!-- ***** -->
<!ELEMENT 基礎情報 (写真フォルダ名,参考図フォルダ名?,適用要領)>
  <!ELEMENT 写真フォルダ名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 参考図フォルダ名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 適用要領 (#PCDATA)>

<!-- ***** -->
<!-- ソフトウェア情報-->
<!-- ***** -->
<!ELEMENT ソフトウェア情報 (ソフトウェア名?,バージョン情報?,メーカー名?,メーカー連絡先?,ソフトメーカー用TAG?)>
  <!ELEMENT ソフトウェア名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT バージョン情報 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT メーカー名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT メーカー連絡先 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ソフトメーカー用TAG (#PCDATA)>

<!-- ***** -->
<!-- 写真情報 -->
<!-- ***** -->
<!ELEMENT 写真情報 (写真ファイル情報,撮影工種区分,付加情報*,撮影情報,施工管理値情報?,その他?)>
  <!ELEMENT 写真ファイル情報 (シリアル番号,写真ファイル名,メディア番号)>
    <!ELEMENT シリアル番号 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 写真ファイル名 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT メディア番号 (#PCDATA)>

  <!ELEMENT 撮影工種区分 (写真-大分類,写真区分?,工種?,種別?,細別?,写真タイトル,工種区分予備*)>
    <!ELEMENT 写真-大分類 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 写真区分 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 工種 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 種別 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 細別 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 写真タイトル (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 工種区分予備 (#PCDATA)>

  <!ELEMENT 付加情報 (参考図ファイル名,参考図タイトル,付加情報予備?)>
    <!ELEMENT 参考図ファイル名 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 参考図タイトル (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 付加情報予備 (#PCDATA)>

  <!ELEMENT 撮影情報 (撮影箇所?,撮影年月日)>
    <!ELEMENT 撮影箇所 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 撮影年月日 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 施工管理値情報 (施工管理値)>
    <!ELEMENT 施工管理値 (#PCDATA)>

```

<!ELEMENT その他 (受注者説明文?)>
<!ELEMENT 受注者説明文 (#PCDATA)>

写真属性情報ファイルXML 記入例

成果品の電子媒体に格納する写真属性情報ファイル(PHOTO.XML)の記入例を以下に示す。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE photodata SYSTEM "PHOTO04.DTD">
<photodata DTD_version="04">

<基礎情報>
  <写真フォルダ名>./PIC</写真フォルダ名>
  <参考図フォルダ名>./DRA</参考図フォルダ名>
  <適用要領>工事記録写真等撮影要領 平成28年7月</適用要領>
</基礎情報>

<ソフトウェア情報>
  <ソフトウェア名>デジ衛門 ネクスコ写真管理ソフト</ソフトウェア名>
  <バージョン情報>Ver2.01A</バージョン情報>
  <メーカー名>〇〇システム株式会社</メーカー名>
  <メーカー連絡先>東京都千代田区一番町1-1-1 TEL 03-1234-5678 FAX 03-8765-4321</メーカー連絡先>
</ソフトウェア情報>

<写真情報>
  <写真ファイル情報>
    <シリアル番号>1</シリアル番号>
    <写真ファイル名>P0000001.JPG</写真ファイル名>
    <メディア番号>1</メディア番号>
  </写真ファイル情報>

  <撮影区分>
    <写真-大分類>工事</写真-大分類>
    <写真区分>施工状況写真</写真区分>
  </撮影区分>

  <撮影工種区分>
    <工種>土工</工種>
    <種別>構造物裏込め工</種別>
    <細別>裏込め</細別>
    <写真タイトル>〇〇橋A1橋台裏込め施工状況</写真タイトル>
  </撮影工種区分>

  <付加情報>
    <参考図ファイル名>D0000001.JPG</参考図ファイル名>
    <参考図タイトル>位置平面図</参考図タイトル>
  </付加情報>

  <付加情報>
    <参考図ファイル名>D0000002.TIF</参考図ファイル名>
    <参考図タイトル>構造図</参考図タイトル>
  </付加情報>

  <付加情報>
    <参考図ファイル名>D0000003.TIF</参考図ファイル名>
    <参考図タイトル>作業フロー</参考図タイトル>
  </付加情報>

```

<撮影情報>

<撮影箇所>測点:1L</撮影箇所>

<撮影年月日>2016-11-27</撮影年月日>

</撮影情報>

<施工管理値情報>

<施工管理値>締固め密度比 97%以上・実測密度比 101%</施工管理値>

</施工管理値情報>

</写真情報>

</photodata>

使用可能文字一覧

(1) 全角文字

JIS X 0208 で規定されている文字から数字とラテン文字を除いた文字を全角文字という。

上記規定文の「全角文字」として、次の文字が使用可能である。

JIS X 0208 1 区

(SP)	、	。	，	・	・	：	；	？	！	ゝ	ゞ	ゝ	ゞ	ゝ	ゞ	ゝ	ゞ	ゝ	ゞ	ゝ	ゞ																			
ゝ	ゞ	〃	全	々	々	○	一	一	-	/	\	～	//		…	..	‘	’	“	”	（	）	〔	〕	[]	{	}	<	>	《	》	「	」	『	』	【	】	+	
—	±	×	÷	=	≠	<	>	≦	≧	∞	∴	♂	♀	°	'	”	℃	¥	\$	¢	£	%	#	&	*	@	§	☆	★	○	●	◎	◇							

JIS X 0208 2 区

◆	□	■	△	▲	▽	▼	※	〒	→	←	↑	↓	=	∈	∋	⊆	⊇	⊂	⊃
∪	∩	∧	∨	¬	⇒	⇔	∇	∃	∠	⊥	∩	∂	∇	≡	≐	≪	≫	√	∞
∞	∴	∫	∫	Å	%	#	b	♪	†	‡	¶	○							

JIS X 0208 4 区

あ	あ	い	い	う	う	え	え	お	お	か	が	き	ぎ	く	ぐ	け	げ	こ	ご
さ	ざ	し	じ	す	ず	せ	ぜ	そ	ぞ	た	だ	ち	ぢ	っ	っ	づ	て	で	と
ど	な	に	ぬ	ね	の	は	ば	ぱ	ひ	び	ぴ	ふ	ぶ	ぷ	へ	べ	ぺ	ほ	ぼ
ぽ	ま	み	む	め	も	や	や	ゆ	ゆ	よ	よ	ら	り	る	れ	ろ	わ	わ	ゐ
ゑ	を	ん																	

JIS X 0208 5 区

ア	ア	イ	イ	ウ	ウ	エ	エ	オ	オ	カ	ガ	キ	ギ	ク	グ	ケ	ゲ	コ	ゴ
サ	ザ	シ	ジ	ス	ズ	セ	ゼ	ソ	ゾ	タ	ダ	チ	ヂ	ツ	ヅ	テ	デ	ト	
ド	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	バ	パ	ヒ	ビ	ピ	フ	ブ	プ	ヘ	ベ	ペ	ホ	ボ
ポ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ヤ	ユ	ユ	ヨ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ	ワ	ヰ
エ	ヲ	ン	ヴ	カ	ケ														

JIS X 0208 6 区

A	B	Γ	Δ	E	Z	H	Θ	I	K	Λ	M	N	Ξ	O	Π	P	Σ	T	Υ
Φ	X	Ψ	Ω	α	β	γ	δ	ε	ζ	η	θ	ι	κ	λ	μ	ν	ξ	ο	π
ρ	σ	τ	υ	φ	χ	ψ	ω												

JIS X 0208 7 区

А	Б	В	Г	Д	Е	Ё	Ж	З	И	Й	К	Л	М	Н	О	П	Р	С	Т
У	Ф	Х	Ц	Ч	Ш	Щ	Ъ	Ы	Ь	Э	Ю	Я	а	б	в	г	д	е	ё
ж	з	и	й	к	л	м	н	о	п	р	с	т	у	ф	х	ц	ч	ш	щ
ъ	ы	ь	э	ю	я														

JIS X 0208 8 区

一	丨	┌	┐	└	┘	├	┤	├	┤	├	┤	├	┤	├	┤	├	┤	├	┤
├	┤	├	┤	├	┤	├	┤	├	┤	├	┤	├	┤	├	┤	├	┤	├	┤

JIS X 0208 16 区

亜	啞	娃	阿	哀	愛	挨	始	逢	葵	茜	穉	惡	握	渥	旭	葦	芦	鯨	梓
庠	幹	扱	宛	姐	虻	飴	絢	綾	鮎	或	粟	袷	安	庵	按	暗	案	闇	鞍

）

省略

）

JIS X 0208 84 区

堯	楨	遙	瑤	凜	熙
---	---	---	---	---	---

(2) 半角英数字

JIS X 0201 で規定されている文字から片仮名用図形文字を除いた文字を半角英数字という。

上記規定文の「半角英数字」として、次の文字が使用可能である。

(SP)	!	“	#	\$	%	&	‘	()	*	+	,	-	.	/	0	1	2	3
4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?	@	A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[
¥]	^	_	`	A	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
p	q	r	s	T	u	v	w	x	y	z	{		}	~					

(3) 半角英数大文字

「半角英数字」からラテン小文字(LATIN SMALL LETTER A～Z)を除いた文字を半角英数大文字という。

上記規定文の「半角英数大文字」として、次の文字が使用可能である。

(SP)	!	“	#	\$	%	&	‘	()	*	+	,	-	.	/	0	1	2	3
4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?	@	A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[
¥]	^	_	`	{		}	~											

(4) 半角数字

JIS X 0201 で規定されている文字のうちの数字(DIGIT ZERO～NINE)及び小数点(.)を半角数字という。

上記規定文の「半角数字」として、次の文字が使用可能である。

.	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---